

SWX600

ソフトウェアマニュアル

株式会社DTSインサイト

改訂履歴

版	発行日付	変更内容
第 1 版	2019.03.15	新規発行
第 2 版	2019.11.29	誤記修正
第 3 版	2020.02.07	機能名変更 Main System Update→FIRM Update Sub System Update→FPGA Update Main System Version→FIRM Version Sub System Version→FIRM Version エラー表示 も同様に修正
第 4 版	2021.08.31	機能追加 EDIT モード説明追記 DIO 制御を追加
第 5 版	2022.02.15	2.35 章一部記述変更
第 6 版	2022.04.14	機能追加 1.3 章 Address Warning Area 1.6 章 Address Warning Load(説明追記) 付録 1 CAN 設定値一覧 (設定変更説明追記) 付録 2 CAN-FD 設定値一覧 (設定変更説明追記)

< ご注意 >

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容について、ご不審な点やお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の内容の影響については、(3)項にかかわらず、責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本書に記載されている会社名・製品名は、各社の登録商標、または商標です。

 本マニュアルにおける「プログラミング」とは、対象マイコン内蔵フラッシュメモリ、または対象マイコンに接続されている外部フラッシュメモリへのデータ書き込みのことをさしています。

アイコンについて

本ガイドで使用しているアイコンには、以下の意味があります。



特に重要な情報を記載しています。操作する際は十分に注意してください。



操作を進める上で役に立つ情報やアドバイスなどの補足事項を記載しています。



本マニュアルのほかのページやほかのマニュアルなどの参照情報を記載しています。

用語	説明
SD カード	本体に挿入して使用する専用 SD カードです。本体使用時は必ず専用の SD カードが必要です。また、オブジェクトファイルや、各種書き込み条件ファイルを SD カードの YIM フォルダ内にあらかじめダウンロードしておくことで、スタンドアロンでの利用が可能です。
バッファメモリ	書き込み対象となるマイコンと同一メモリマップのバッファメモリを SD カード上の各 YIM フォルダ内にもっています。マイコンのフラッシュメモリに書き込み時は、このバッファメモリのデータが書き込みされます。 バッファメモリにユーザーのオブジェクトファイルをロード/セーブする機能や、バッファメモリの編集(エディット)機能などがあります。
定義体	SD カードの各 YIM フォルダ内に、各種マイコンと通信するために持っている固有のプログラムです。定義体の一部はパラメータとなっていて、リモートコントローラ SWX600 を使用して変更が可能です。(定義体を使用する際には、SD カード毎にライセンスの購入が必要です。)
プローブロジック	AFX ではプローブケーブルとして PHX400、PHX を提供しています。PHX400 は初期設定でシリアル、SPI を標準対応し、プローブロジックライセンスを追加することで対応インターフェースを拡張することができます。
オブジェクトファイル	ユーザーがマイコンのフラッシュに書き込むためのプログラム/データファイルです。NETIMPRESS では、バイナリ、インテル HEX、モトローラ S の形式に対応しています。

目次

はじめに	5
1. 画面説明	6
1.1. Host Communication	9
1.2. Basic Operation	10
1.3. Parameter Table 1(パラメータ設定画面)	12
1.4. Parameter Table 2(パラメータ設定画面)	14
1.5. License Information	15
1.6. File Transfer	16
1.7. Configuration	18
1.8. Version	19
2. 操作説明	20
2.1. ライセンスを追加する	20
2.2. ライセンスを読み出す	21
2.3. ライセンスを保存する	22
2.4. ベリファイモードの設定	23
2.5. デバイスファンクションの実行	24
2.6. バッファメモリを固定データで書き換える	25
2.7. ファイルをロードする	26
2.8. ファイルを保存する	27
2.9. カレント YIM フォルダ内ファイルを消去する	28
2.10. フラッシュメモリのブロック構成を変更する	29
2.11. YIM フォルダを選択する	30
2.12. YIM フォルダを作成する	31
2.13. YIM フォルダを消去する	33
2.14. YIM フォルダを複製する	34
2.15. YIM フォルダをダウンロードする	35
2.16. YIM フォルダをアップロードする	36
2.17. SD カード内のログファイルを保存する	37
2.18. ログファイルを SD カード内から消去する	38
2.19. オブジェクトファイルをダウンロードする	39
2.20. オブジェクトファイルをアップロードする	40
2.21. バッファメモリをクリアする	41
2.22. バンドルファイルをダウンロードする	42
2.23. バンドルファイルをアップロードする	43
2.24. バンドルファイルを消去する	44

2.25.	SDカードを初期化する	45
2.26.	パラメータファイルをダウンロードする	46
2.27.	パラメータファイルをアップロードする	47
2.28.	定義体ファイルをダウンロードする	48
2.29.	定義体ファイルをアップロードする	49
2.30.	日付と時間を設定する	50
2.31.	タイムアウト時間を設定する	51
2.32.	プローブ設定を変更する	52
2.33.	ログ保存機能を有効にする	53
2.34.	DIO フィルタを設定する	54
2.35.	DIO 制御を実行する	55
3.	パラメータ変更ツールとして使用する	57
3.1.	Edit Mode でのパラメータファイルの編集	58
4.	エラー一覧	60
5.	付録1 CAN 設定値一覧	65
6.	付録2 CAN-FD 設定値一覧	68
7.	お問い合わせ先	72

はじめに

SWX600 は、NETIMPRESS avant(AFX100)を代表とする AFX シリーズの本体を Ether 経由で PC（指定の windows OS で動作するパーソナルコンピュータ）から YIM フォルダの作成、パラメータテーブルの変更、各種ファイルのダウンロード、デバイスファンクションの実行などのリモート制御を行うためことができます。（Remote Mode）

また、コントロールモジュールにダウンロードして使用することができるパラメータファイル(*.prm)を、NET IMPRESS との接続を必要とせずに編集/保存することができます。（Edit Mode）

編集/保存されたパラメータファイルは、Remote Mode にて NET IMPRESS と接続した後に Load Parameter にてダウンロードを行って使用することができます。



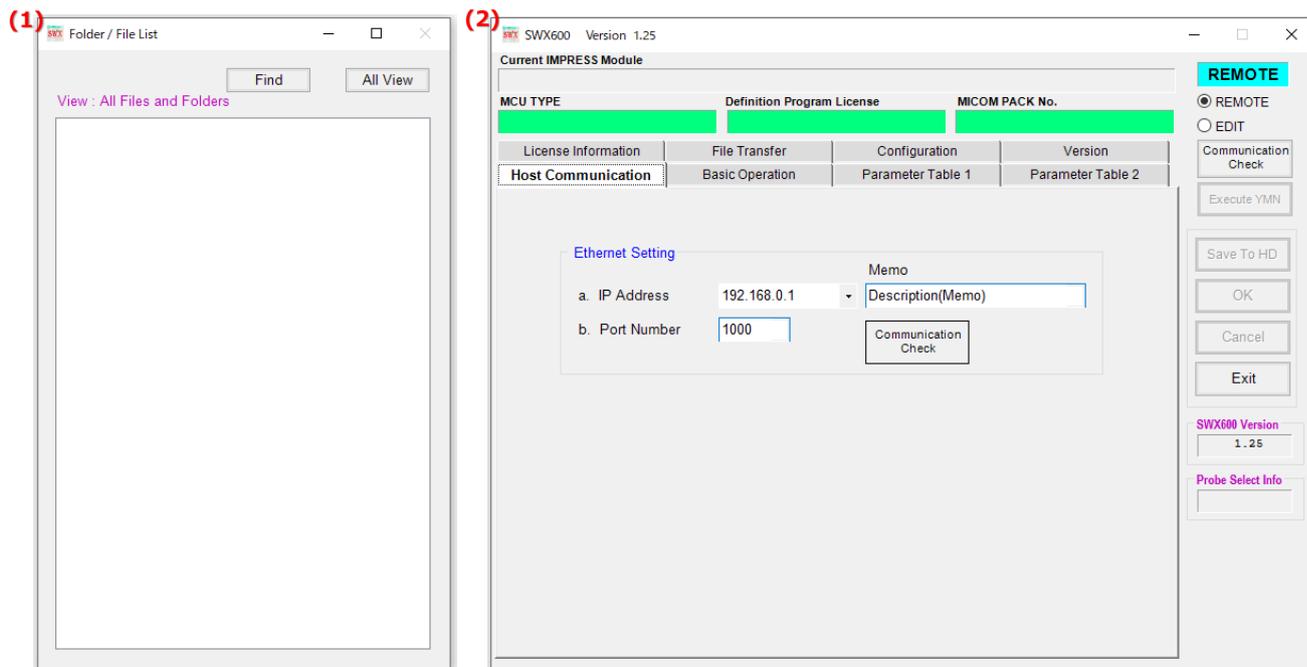
SWX600 は旧シリーズ(NETIMPRESS next)では使用することはできません。



SWX600 のインストール、使用環境起動方法についてはスタートアップマニュアルをご参照ください。

1. 画面説明

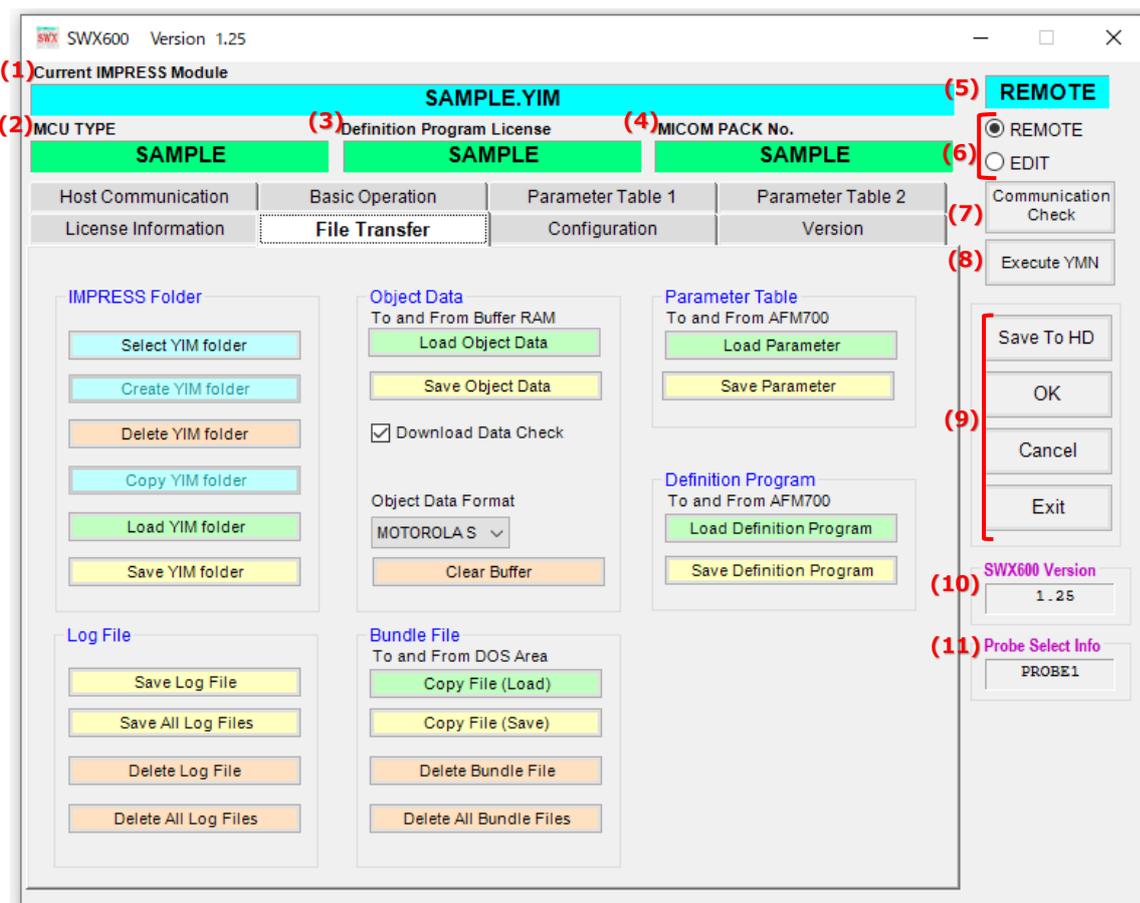
SWX600 を起動させると以下の二つのウィンドウが開きます。



(1) フォルダ・ファイルリスト画面…SD カードに保存された YIM フォルダやその他ファイル一覧を表示します。本画面内で各 YIM フォルダを右クリックすることで、各種操作を行うことができます。

(2) メイン画面…ライタとの接続やターゲットボードの動作環境等の設定、各ファンクションの実行をします。

共通部分

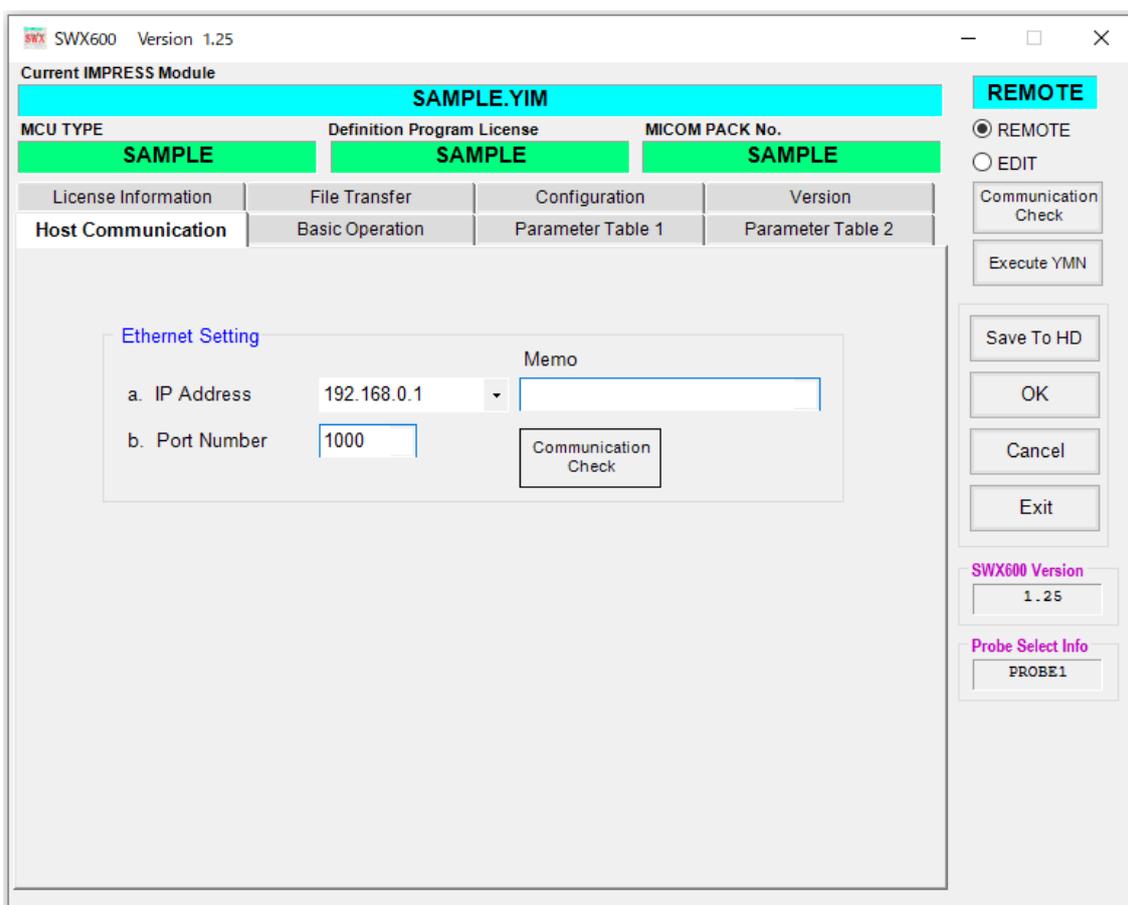


- (1) Current IMPRESS Module…現在選択されている YIM フォルダを表示します。
- (2) MCU TYPE…書き込み対象マイコンの型名を表示します。
- (3) Definition Program License…定義体ライセンス情報を表示します。
- (4) MICOM PACK No.…現在使用しているマイコンパック名を表示します。
- (5) REMOTE Controller モード表示…現在のモード（REMOTE 又は EDIT）を表示します。
- (6) REMOTE : リモートコントローラとして動作していることを示します。
EDIT : エディットモードとして動作していることを示します。（パラメータ変更ツール）
- (7) Communication Check…本体と接続する際に使用します。
- (8) Execute YMN…YMN 機能を実行する際に使用します。
- (9) OK …SWX600 上で変更したパラメータを本体に設定します。
Cancel …SWX600 上で変更したパラメータを決定前の値に戻します。
Exit …SWX600 を終了します。
- (10) SWX600 Version…本ソフトウェアのバージョン情報を表示します。
- (11) Probe Select Info…現在選択されているプローブ情報を表示します。

機能別タブ画面

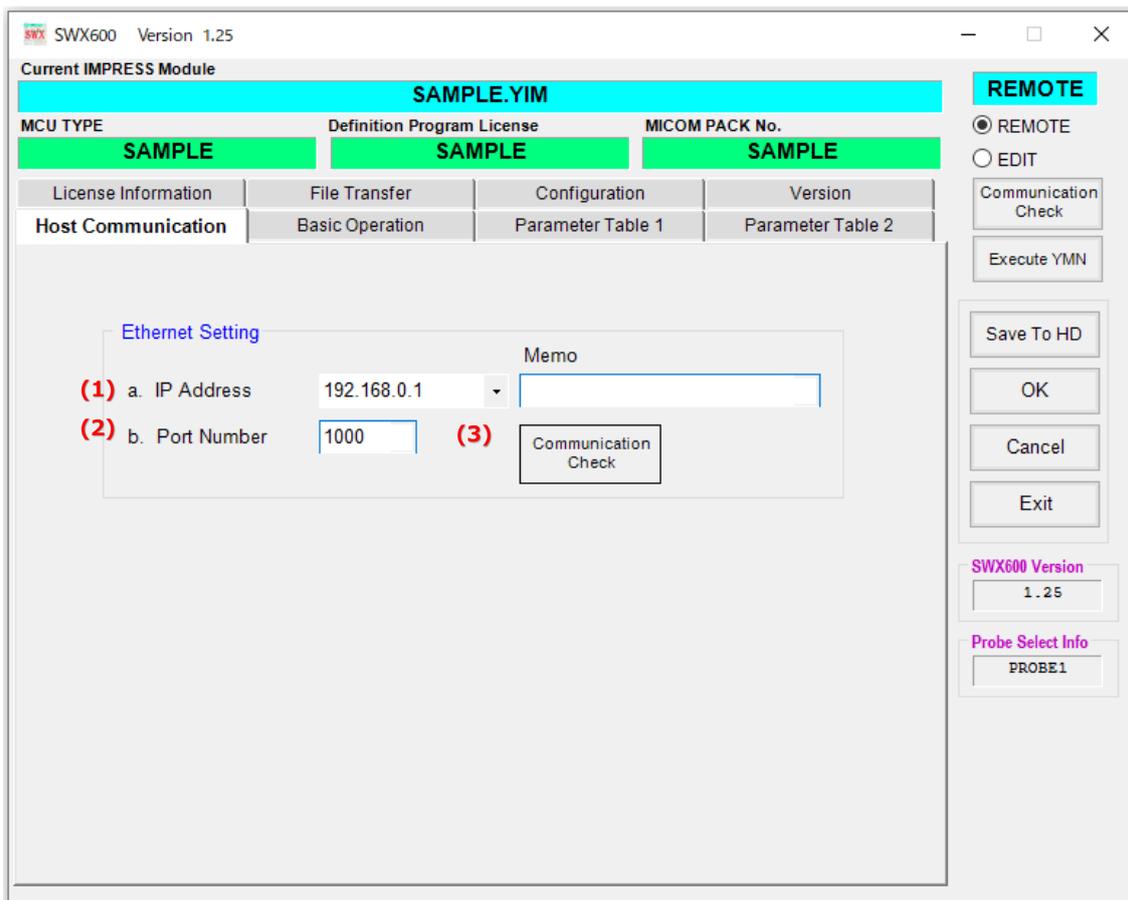
SWX600 は下記の 8 つのタブ画面で構成されています。

- Host Communication . . . プログラマとの接続画面
- Basic Operation . . . デバイスファンクション実行画面
- Parameter Table 1 . . . パラメータ設定画面
- Parameter Table 2 . . . パラメータ設定画面（固有パラメータ）
- License Information . . . ライセンス追加画面
- File Transfer . . . ファイル転送画面
- Configuration . . . 本体設定画面
- Version . . . 各バージョン情報表示画面



1.1. Host Communication

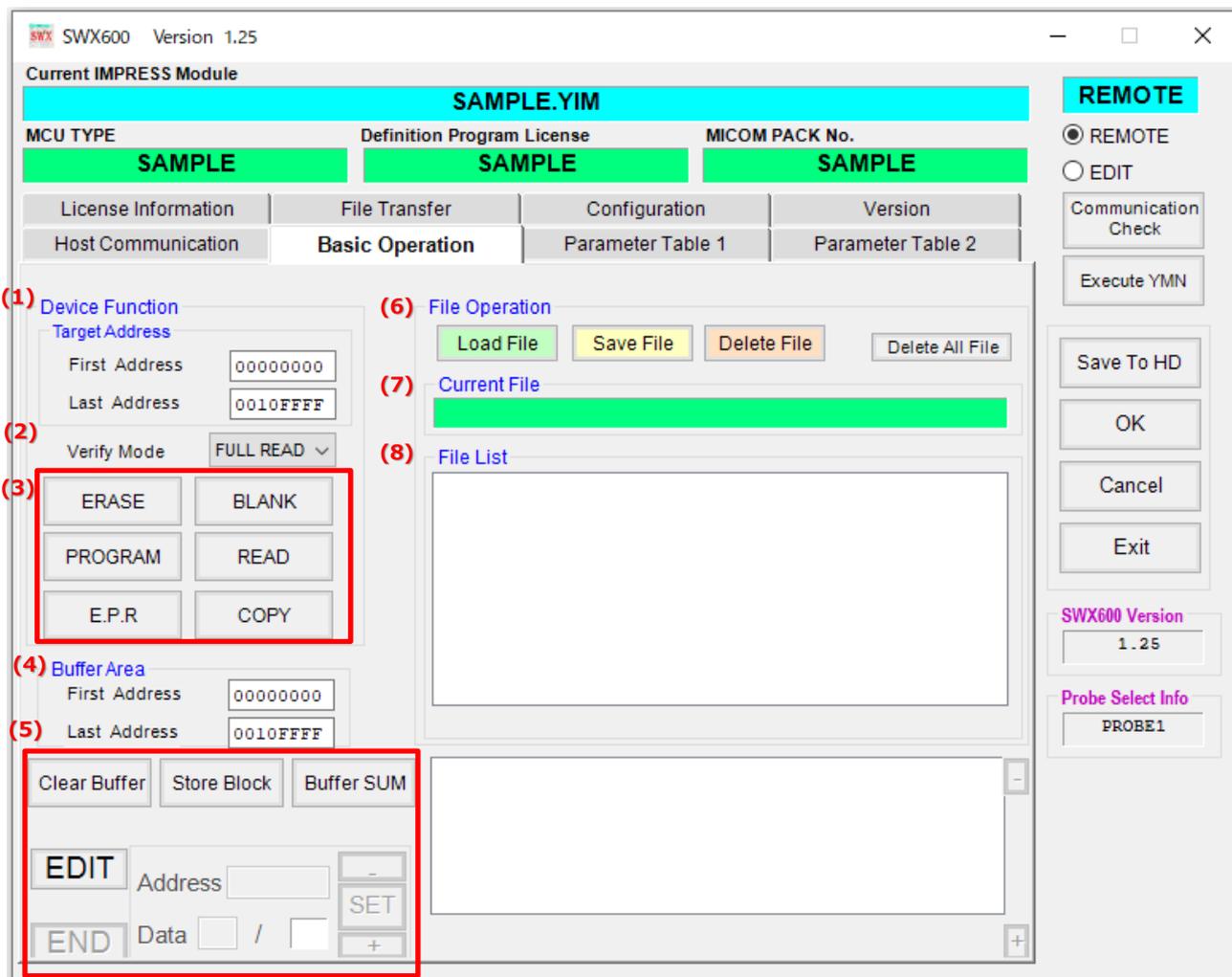
本体との通信設定を行います。



- (1) IP Address …本体の IP アドレスを設定します。
- (2) Port Number …本体のポート番号を設定します。
- (3) Communication Check …本体との接続を行います。

1.2. Basic Operation

デバイスファンクションの実行およびバッファメモリへの操作を行います。



(1) Target Address

デバイスファンクションを行う対象領域を設定します。対象領域の始めと終わりのアドレスを設定してください。

(2) Verify Mode

デバイスファンクションでベリファイを実行する際のベリファイ方法を変更します。

(3) デバイスファンクション

- ERASE…フラッシュメモリを消去しブランクチェックを行います。
- BLANK…ブランクチェックを行います。
- PROGRAM…フラッシュメモリに書き込みを行い、ベリファイを行います。
- READ…ベリファイを行います。
- E.P.R…ERASE→BLANK→PROGRAM→READの順に処理を行います。
- COPY…フラッシュメモリの内容をバッファメモリにコピーします

(4)Buffer Area

バッファエリアの設定を行います。

(5)バッファ操作

- Clear Buffer…バッファメモリをクリアします。
- Store Block…バッファメモリの任意の範囲を 1byte のデータで書き換えます。
- Buffer SUM…Target Address と Buffer Area で指定した領域の SUM 値を表示します。

(6)File Operation

ファイルへの操作を行います。

- Load File…カレント YIM フォルダに保存されたファイルをバッファメモリにロードします
- Save File…バッファメモリの内容をカレント YIM フォルダ内にファイルとしてセーブします。
- Delete File…カレント YIM フォルダ内の任意のファイルを消去します。
- Delete All File…カレント YIM フォルダ内の全てのファイルを消去します。

(7)Current File

バッファメモリに展開されているファイル名が表示されます。

(8)File list

カレント YIM フォルダ内にあるファイルを表示します。

1.3. Parameter Table 1(パラメータ設定画面)

Parameter Table 1 画面では、お客様の環境に合わせてフラッシュ書き込み環境の設定ができます。マイコンの動作クロック周波数、ターゲット電源検出レベル(TVcc しきい値)、通信ボーレートなどの設定を変更する場合は本画面よりパラメータの変更を行ってください。

(1) MCU Type SAMPLE

(2) TVcc Threshold 2.7 [V]

(3) MCU Clock Frequency 8.0 [MHz]

(4) MCU Operation Mode 0000

(5) WDT Clock Period 2 [ms]

(6) BufferRAM Initialize Mode KEEP

(7) SUM Check Mode 8/8bit

(8) Address Warning Area ON

(9) ROM Block Configuration Setting

(10) Flash ROM Area

First Address 00000000

Last Address 0010FFFF

(11) Buffer Area

First Address 00000000

Last Address 0010FFFF

(12) RAM DISK Area

First Address 00000000

Ram Disk Size 00000000

(13) Data Communication

Interface CSI

Baud Rate 5M bps

(1) MCU TYPE

ターゲット名などを表示します。任意の文字列に変更を行うことも可能です (MAX 20 文字)

(2) TVcc Threshold

デバイスファンクション実行時に、この設定をしきい値として、ターゲットに電源が投入されていることをチェックします。通常は、ターゲット電源電圧の 90%程度の値を設定します。

(3) MCU Clock Frequency

ターゲット MCU の動作周波数を設定します。(0~99.9[MHz])

(4)MCU Operation Mode

MCU のモードを設定します。詳細は使用している定義体のマニュアルをご覧ください。

(5)WDT Clock Period

ウォッチドッグタイマのクロック周期を設定します。（1～200[ms]）

(6)Buffer RAM Initialize Mode

- ・KEEP…電源を切る前のデータを維持します。
- ・CLEAR…本体起動時にバッファメモリを初期化します。

(7)SUM Check Mode

SUM 値の計算モードを選択します。（計算方法/表示方法）

(8)Address Warning Area

AFX シリーズの起動時に「PROGRAMMING AREA」 「BUFFER AREA」がターゲットデバイスの全領域情報と異なる場合に“ADDRESS WARNING”エラーを出力します。

- ・ON : エラー[1016:ADDRESSWARNING]
- ・OFF : エラーなし

(9)ROM Block Configuration

書き込みを行うフラッシュメモリの設定を行います。

(10)Flash ROM Area

フラッシュ ROM 領域を設定します。

! **必ず、内蔵フラッシュメモリ領域の全域がカバーされるように設定して下さい。**

(11)Buffer Area

バッファ領域を設定します。

(12)RAM DISK Area

RAM DISK 領域を設定します。

(13) Data Communication

デバイスとプログラマ間の通信設定をおこないます。通信方法(UART、または、CSI など)、およびボーレートを設定します。

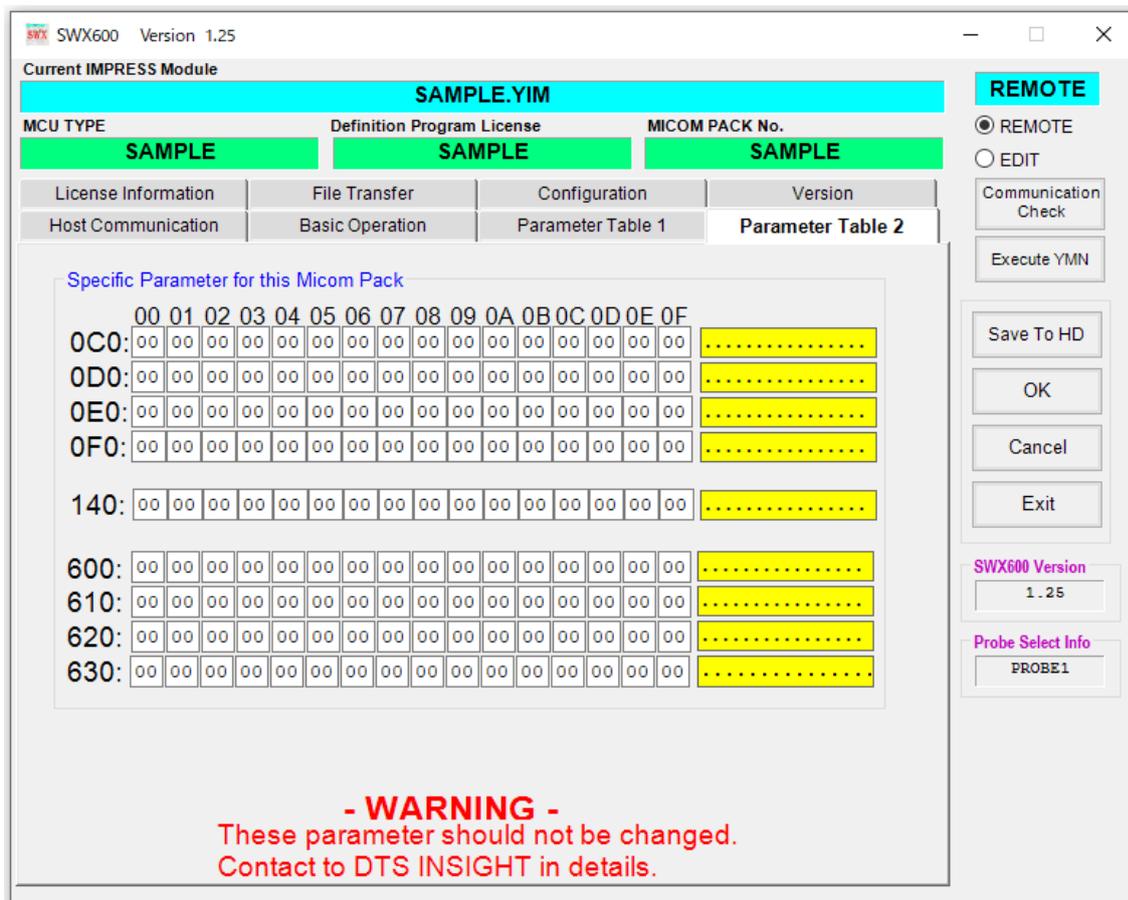
※通信方法 : CAN-FD の場合の補足

付録 1 では、SWX600 からデフォルトで設定可能な設定値一覧を記載しています。

1.4. Parameter Table 2(パラメータ設定画面)

Parameter Table 2 画面では、お客様の環境に合わせてパラメータの値を直接変更できます。

本項に関する詳細は定義体マニュアルをご確認ください。



SWX SWX600 Version 1.25

Current IMPRESS Module
SAMPLE.YIM

MCU TYPE: **SAMPLE** Definition Program License: **SAMPLE** MICOM PACK No.: **SAMPLE**

License Information | File Transfer | Configuration | Version
Host Communication | Basic Operation | Parameter Table 1 | **Parameter Table 2**

Specific Parameter for this Micom Pack

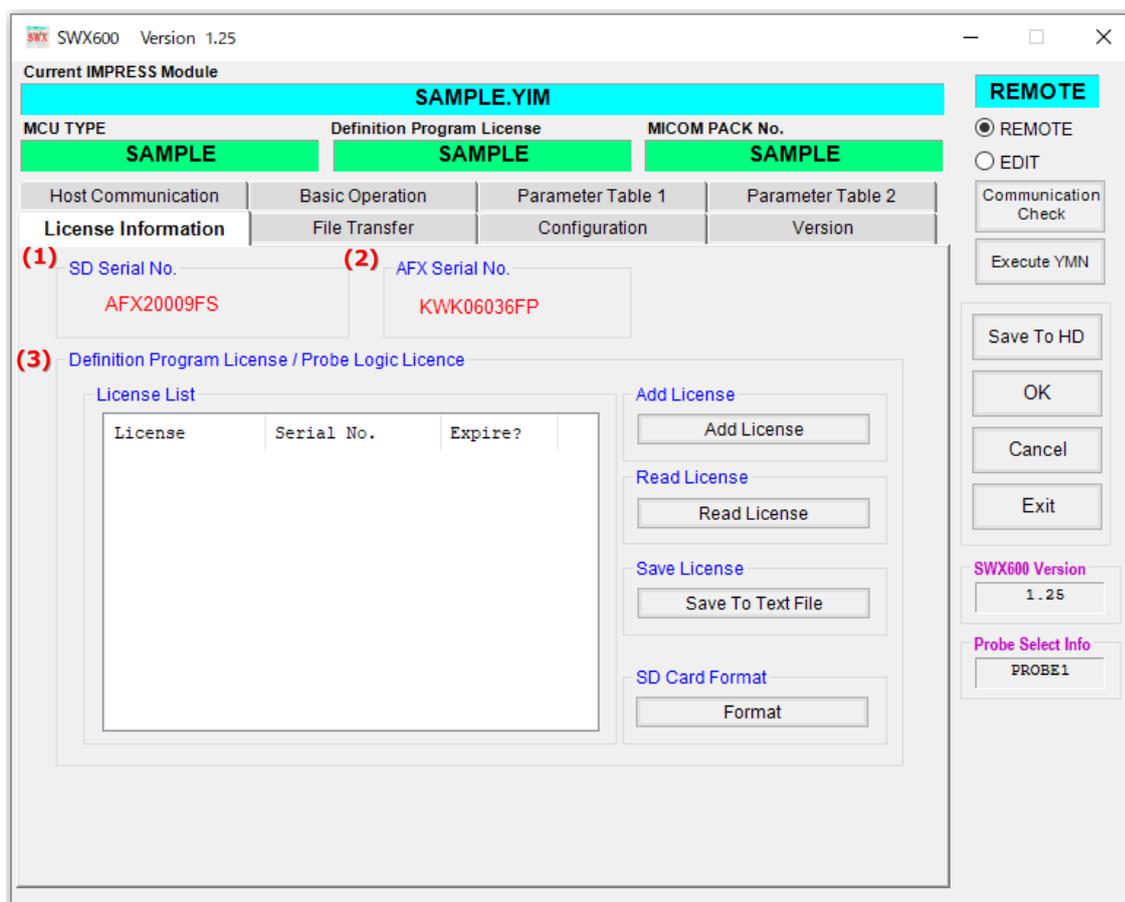
	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F	
0C0:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0D0:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0E0:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0F0:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
140:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
600:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
610:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
620:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
630:	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00

- WARNING -
These parameter should not be changed.
Contact to DTS INSIGHT in details.

REMOTE
 REMOTE
 EDIT
Communication Check
Execute YMN
Save To HD
OK
Cancel
Exit
SWX600 Version 1.25
Probe Select Info PROBE1

1.5. License Information

License Information 画面では主にライセンスの設定を行います。



(1)SD Serial No.

SD カードのシリアル番号です。

(2) AFX Serial No.

本体のシリアル番号です。

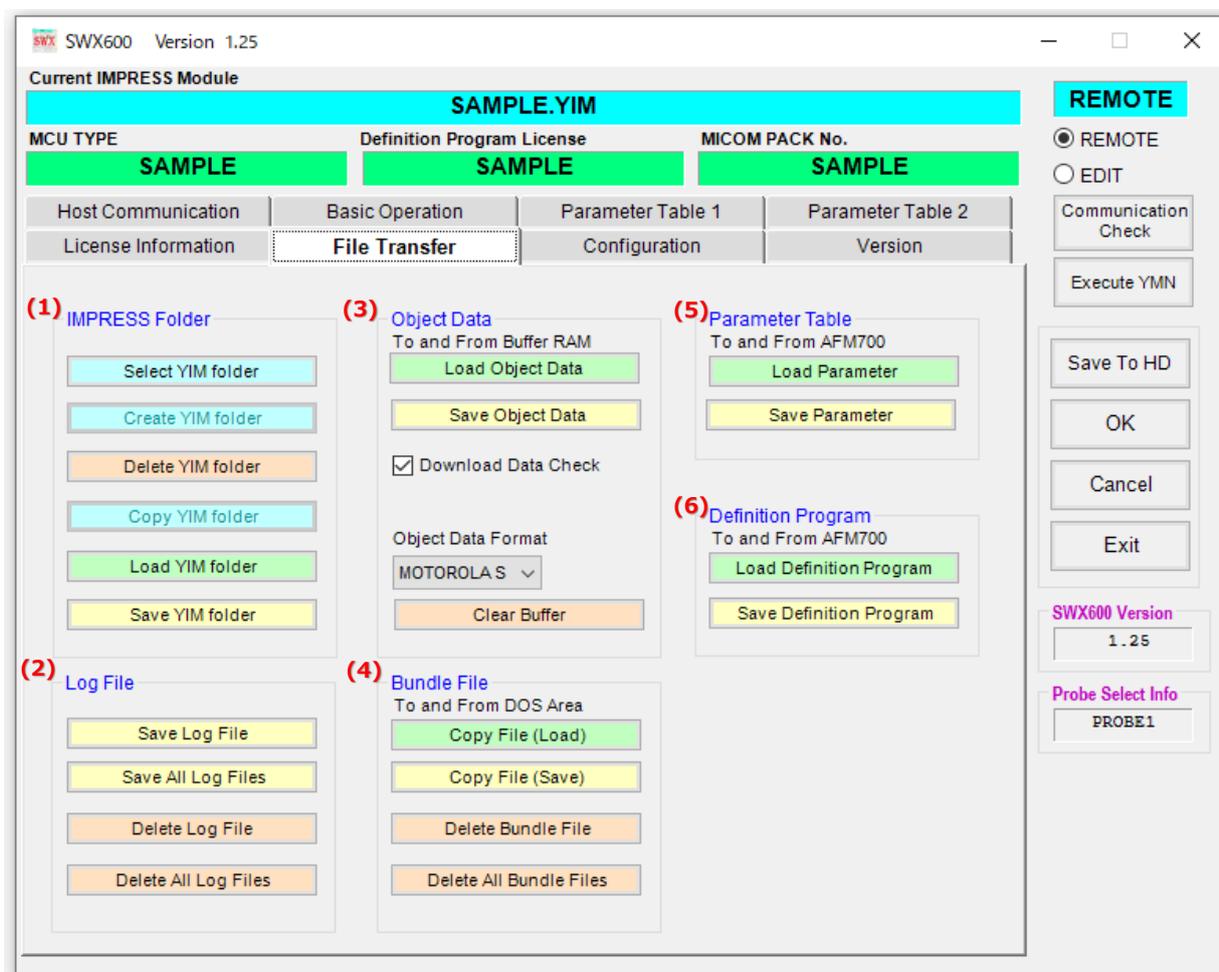
(3)Definition Program License/Probe Logic Licence

定義体ライセンス/プローブロジックライセンスの設定を行います。

- License List…専用 SD カードに登録されているライセンス一覧です。
- Add License…本機もしくは専用 SD カードに定義体ライセンス情報を追加します。
- Read License…専用 SD カード内の定義体ライセンス情報を読み出し、License List に表示します。
- Save License…定義体ライセンス情報をホスト PC に保存します。
- SD Card Format…SD カードのフォーマットを行います。（ファイル等の情報は全て削除されます）

1.6. File Transfer

File Transfer 画面では、CM ファイル、パラメータファイルのダウンロード、各種バンドルファイルの転送、オブジェクトのダウンロードなどフラッシュ書き込み環境（YIM フォルダの作成）のセットアップを行うことができます。



(1) IMPRESS Folder

YIM フォルダの作成や、Folder / File List 画面で選択した YIM フォルダの各種操作を行います。Folder / File List は、別ウィンドウとして表示されます。

- Select YIM folder…YIM フォルダー一覧からフォルダの選択を行います。
- Create YIM folder…新規に YIM フォルダを作成します。
- Delete YIM folder…選択中の YIM フォルダを削除します。
- Copy YIM folder…選択中の YIM フォルダを複製します。
- Load YIM folder…PC から本機 SD カードに YIM フォルダをロードします。
- Save YIM folder…指定した YIM フォルダを PC に保存します。

(2) Log File

本機のログ機能 ON 設定時に専用 SD カードに LOG フォルダを作成し、ログファイルが作成されます。

- Save Log File…専用 SD カード内のログファイルを PC に保存します。
- Save All Log File…専用 SD カード内のログファイルを全て PC に保存します
- Purge Log File…専用 SD カード内のログファイルを選択消去します。
- Purge All Log File…専用 SD カード内のログファイルを全て消去します

(3) Object Data

- Load Object Data…PC 上のオブジェクトファイル（インテル HEX/モトローラ S/バイナリ）をバッファメモリに展開します。
- Save Object Data…バッファメモリ上のオブジェクトファイルを PC にセーブします。
- Object Data Format…セーブ時オブジェクトデータの形式を設定します。
（インテル HEX/モトローラ S）
- Clear Buffer…バッファメモリのデータを、全て 0xFF に書き換えます。
- Download Data Check…ファイルデータが Buffer Area で指定されているアドレス範囲外の場合にワーニングを出力します（Address Warning Load）
 - チェックあり（ON）：エラー[102B:ADDRESSWARNING]
 - チェックなし（OFF）：エラーなし

(4) Bundle File

- Copy File (Load)…任意のバンドルファイルを PC からダウンロードします。
- Copy File(Save)…任意のバンドルファイルを PC へアップロードします。
- Delete Bundle File…任意のバンドルファイルを消去します。
- Delete All Bundle Files…全てのバンドルファイルを消去します。

(6) Parameter Table

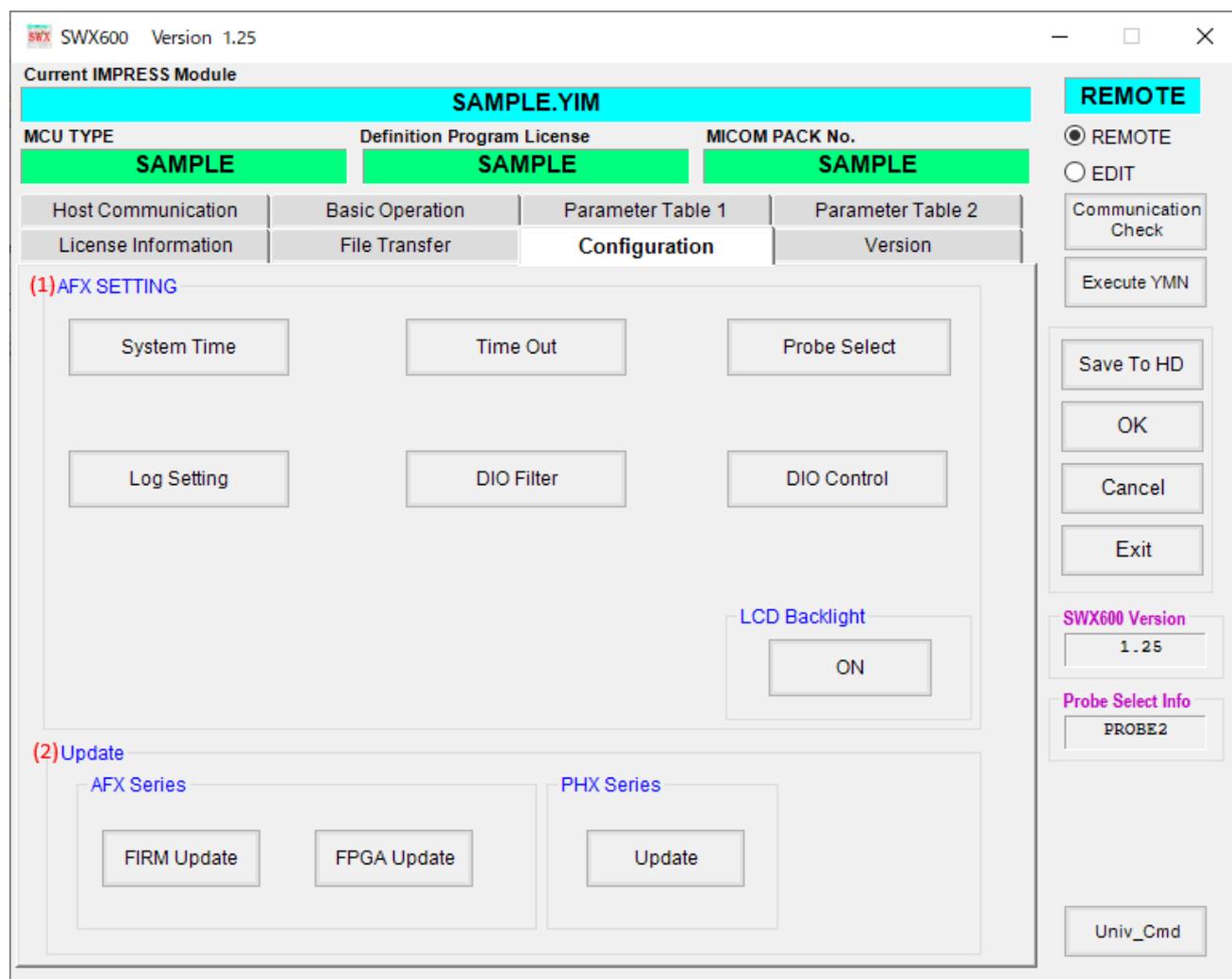
- Load Parameter…PC 上のパラメータを本体にロードします。
- Save Parameter…本体のパラメータを PC 上にセーブします。

(6) Definition Program

- Load Definition Program…PC 上の定義体を本体にロードします。
- Save Definition Program…本体の定義体を PC 上にセーブします。

1.7. Configuration

Configuration 画面では本体の設定を行います。



(1) AFX SETTING

- System Time…日付と時間を設定します。
- Time Out…SWX-AFX 間の通信タイムアウト時間を設定します。
- Probe Select…使用するプローブを設定します。
- Log Setting…ログの設定を行います。
- DIO Filter…1～255[ms]の範囲で設定します。
- DIO Control…AFX から DIO 制御を行います。
- LCD Backlight…本体 LCD 画面のバックライトの入/切を設定します。

(2) Update

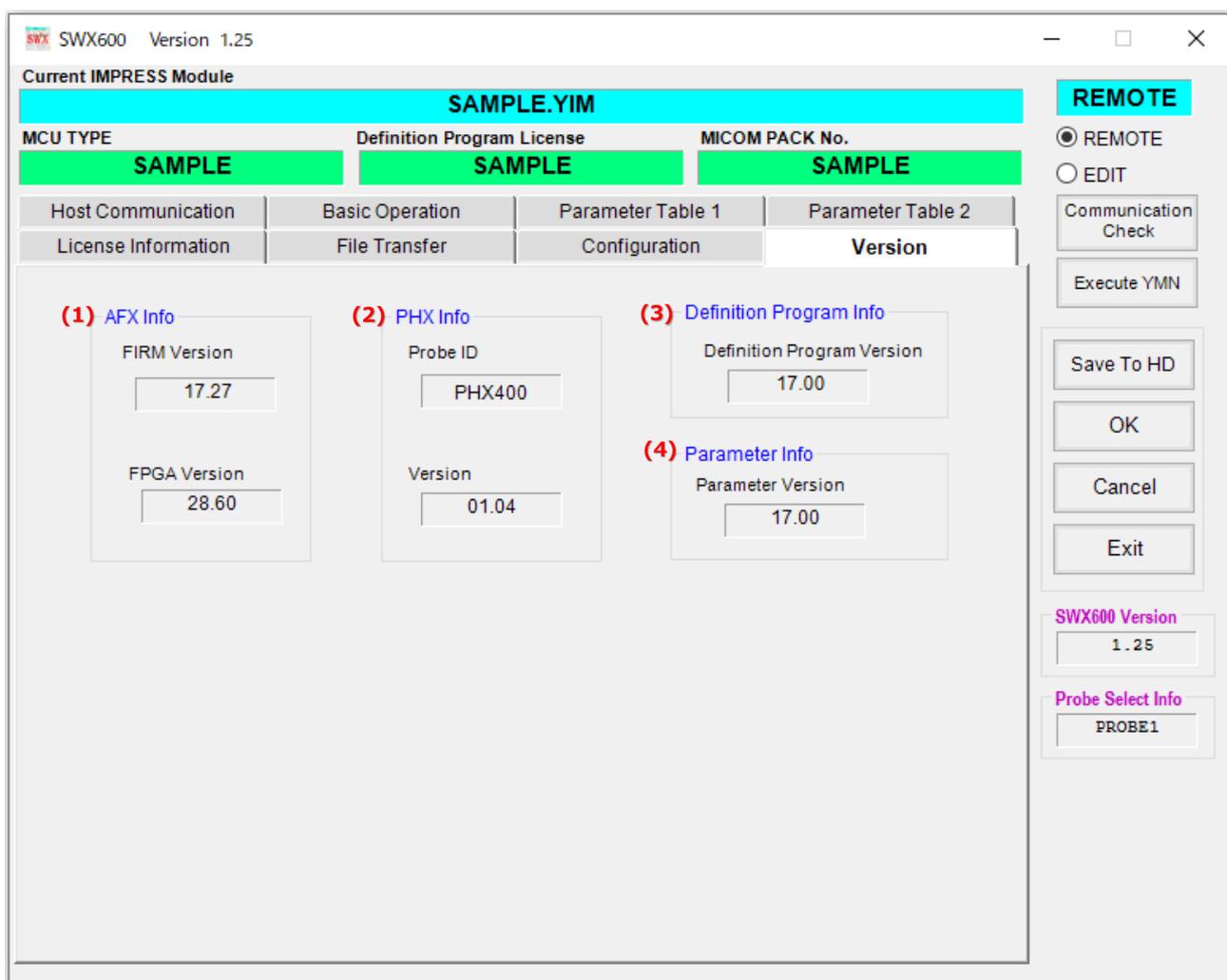
AFX Series

- FIRM Update…ファームウェア用 (.FWK) アップデートファイルを設定してください。
- FPGA Update…FPGA 用(拡張子 .HWL)アップデートファイルを設定してください。

PHX Series

- 詳細は定義体マニュアルを参照ください。

1.8. Version



(1) AFX info

- FIRM Version…ファームウェアのバージョン情報を表示します。
- FPGA Version …FPGA のバージョン情報を表示します。

(2) PHX Info

- Probe ID…プローブの ID を表示します。
- Version…プローブのバージョン情報を表示します。

(3) Definition Program Info

- Definition Program Version…定義体のバージョン情報です。

(4) Parameter Info

- Parameter Version…パラメータファイルのバージョン情報です。

2. 操作説明

本章では主な操作の操作手順を説明します。操作中にエラーが表示された際は、エラー一覧をご確認ください。

2.1. ライセンスを追加する

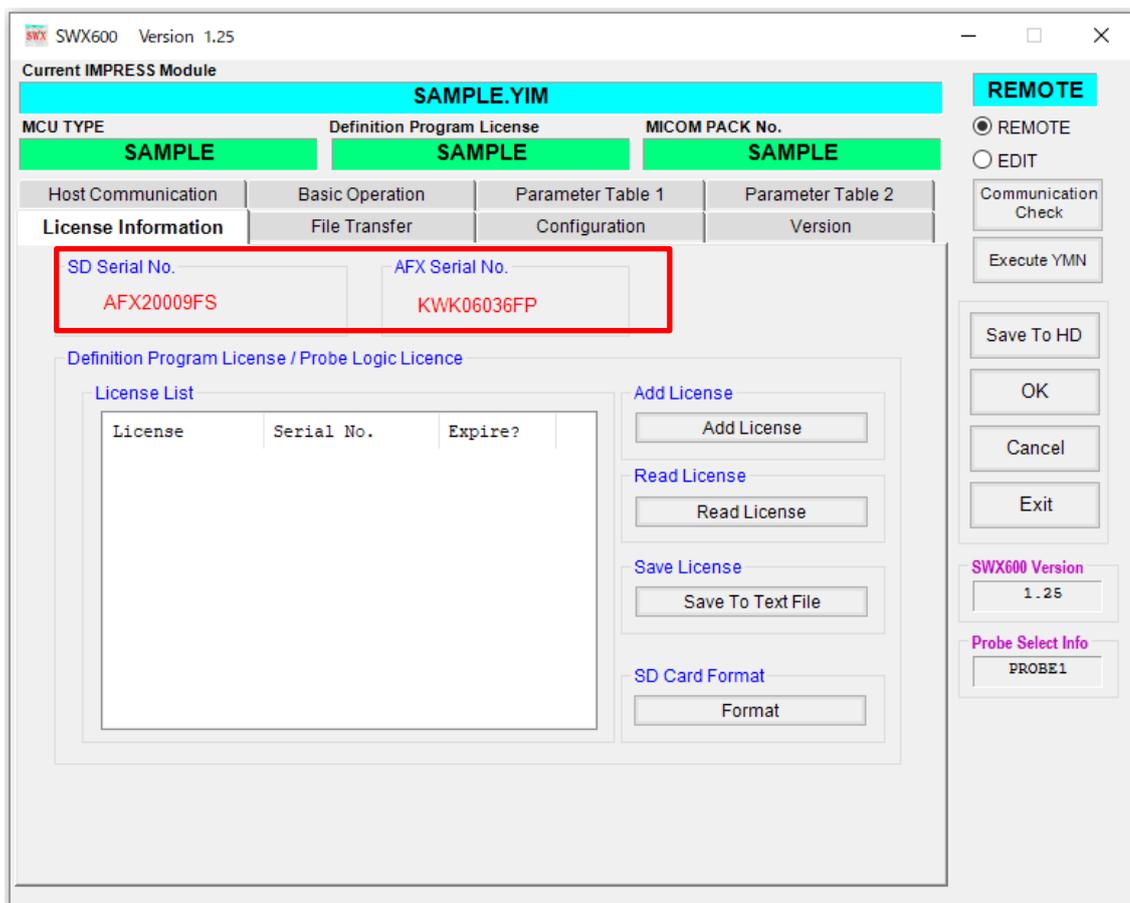
本体又は専用 SD カードに定義体ライセンス情報を追加します。

[License Information]タブの「Add License」をクリックします。(1.5.の(3)参照)

ウィンドウが開きますのでホスト PC 上のライセンスファイルを選択してください。

! プログラミング環境の対象マイコンに対応した定義体を使用するためには、定義体ごとに専用 SD カードに定義体ライセンスを追加する必要があります。本操作を行う前にライセンスシートに従い、必要なライセンスファイル(定義体ライセンス、プローブロジックライセンス)を取得してください。

! ライセンスファイルの取得には、弊社ホームページから定義体ライセンスのユーザー登録が必要です。詳細は NETIMPRESS avant スタートアップマニュアル 第4章をご参照ください。

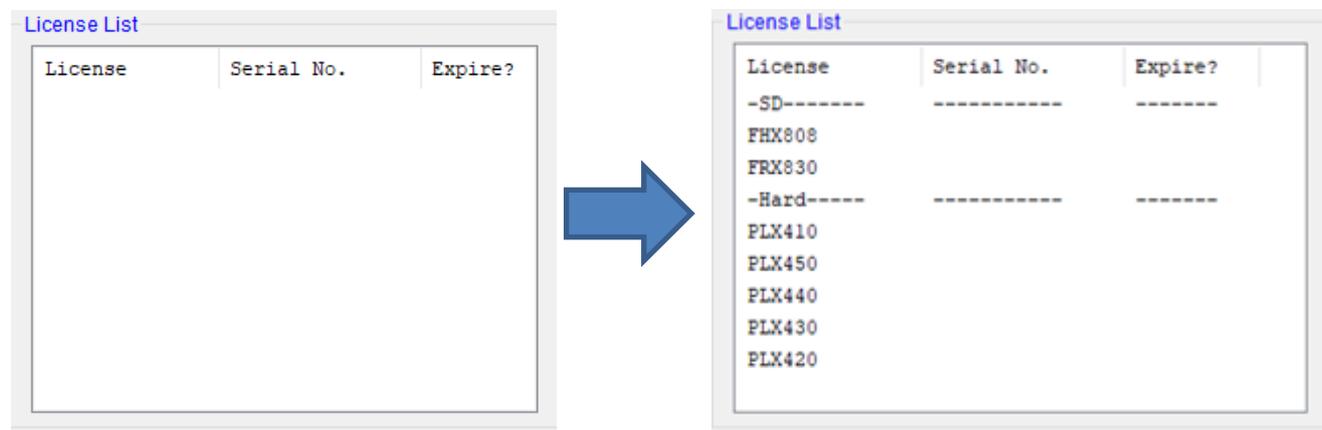


2.2. ライセンスを読み出す

専用 SD カード内の定義体又はプローブのライセンス情報を読み出し、表示します。

[License Information]タブの「Read License」をクリックします。(1.5.の(3)参照)

専用 SD カード内の定義体ライセンス情報が、License List に表示されます。



The diagram illustrates the process of reading license information. It shows two screenshots of a 'License List' table. The left screenshot shows an empty table with headers 'License', 'Serial No.', and 'Expire?'. A blue arrow points to the right screenshot, which shows the same table populated with license data.

License	Serial No.	Expire?
-SD-----	-----	-----
FHX808		
FRX830		
-Hard-----	-----	-----
PLX410		
PLX450		
PLX440		
PLX430		
PLX420		

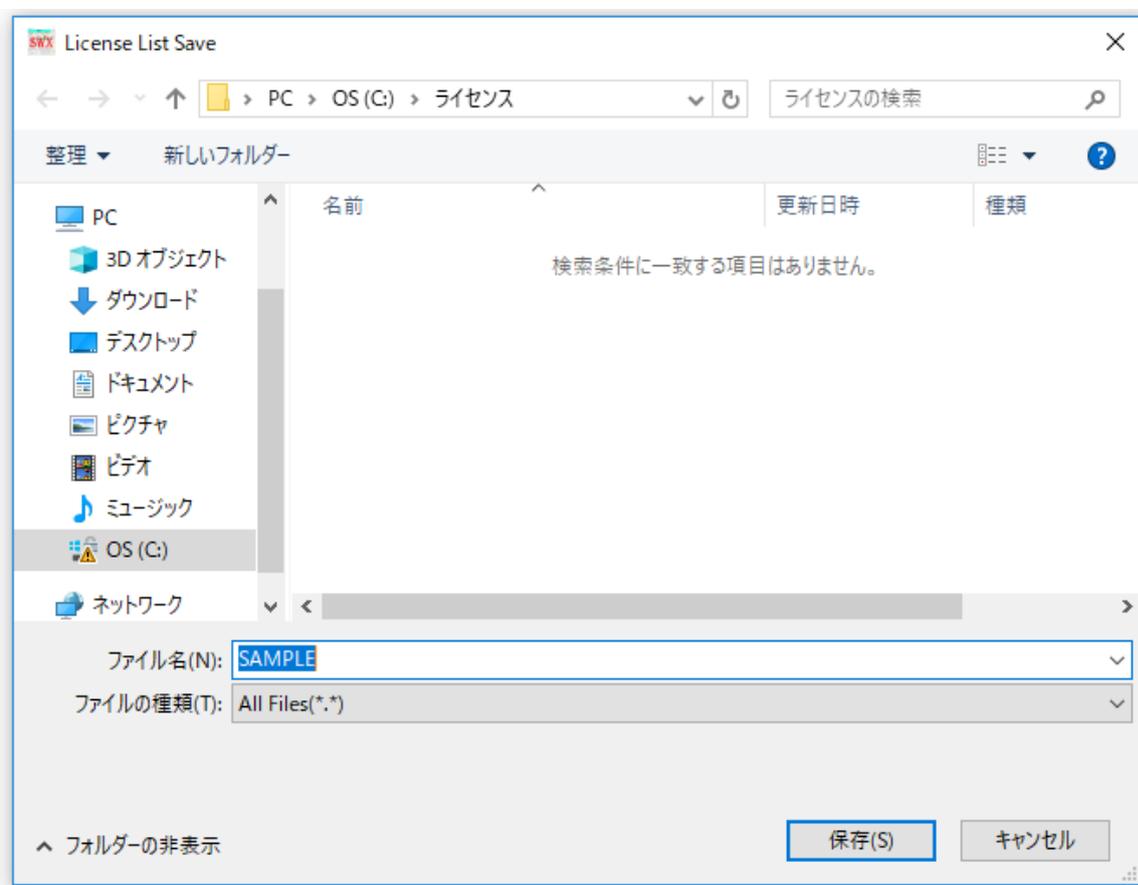
2.3. ライセンスを保存する

読みだした定義体又はプロオブジェクトのライセンス情報をホスト PC 上にテキストファイルで保存します。

[License Information]タブの「Save to Text File」をクリックします。(1.5.の(3)参照)

ファイル保存画面が表示されますので、ファイルの保存先と保存するファイル名を設定後、

“保存”ボタンをクリックします。ファイルの保存を中止したい場合は“キャンセル”ボタンをクリックします。



2.4. ベリファイモードの設定

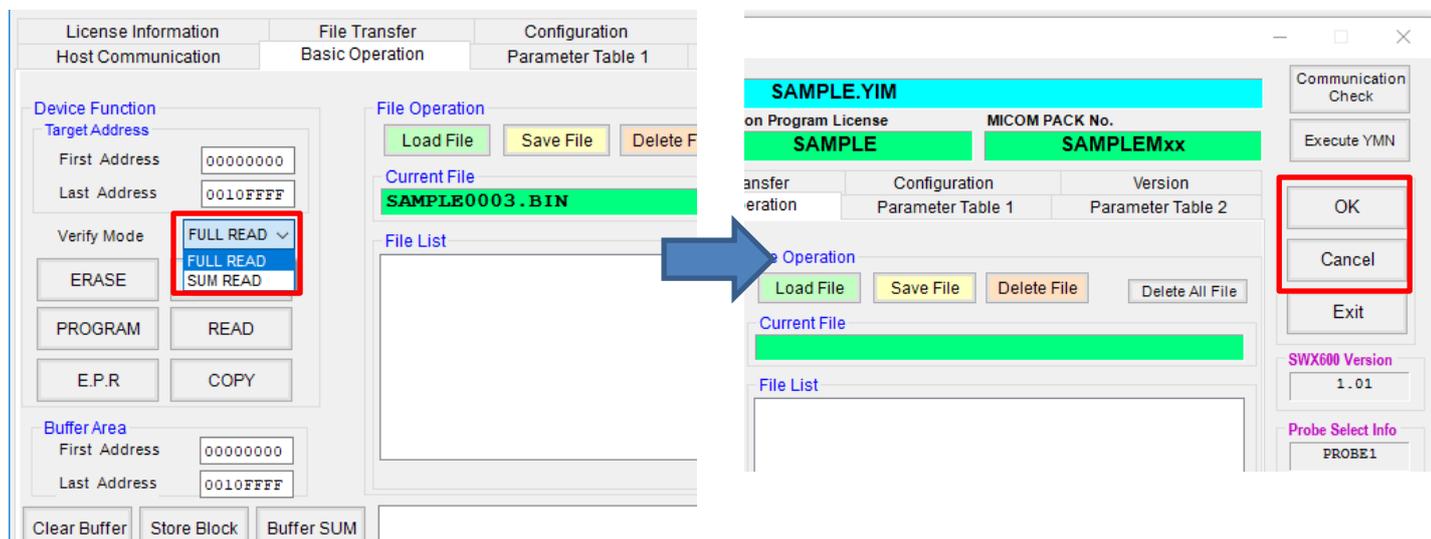
デバイスファンクション実行時のベリファイモードを設定します。

モードは2種類です。

モード	意味
FULL READ	デバイスファンクションによって書き込み実行後、書き込みデータを全データ比較チェックします。
SUM READ	デバイスファンクションによって書き込み実行後、書き込みデータのサム値を比較チェックします。

[Basic Operation]タブのベリファイモードボタンをクリックします。(1.2.の(2)参照)

変更したいモードを選択後ウィンドウ右側の「OK」をクリックします。「Cancel」ボタンをクリックすると変更が取り消され、変更前の設定に戻ります。



2.5. デバイスファンクションの実行

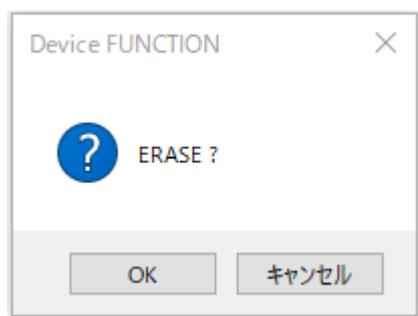
デバイスファンクションを実行します。

[Basic Operation]タブの実行したい処理に対応するデバイスファンクションボタン (E.P.R、ERASE、BLANK、PROGRAM、READ、COPY) をクリックします。(1.2の(3)参照)

各ボタンをクリックすると確認画面が表示されますので、“OK”ボタンをクリックします。

デバイスファンクションの実行を中止したい場合は“Cancel”ボタンをクリックします。

例) ERASE 実行時



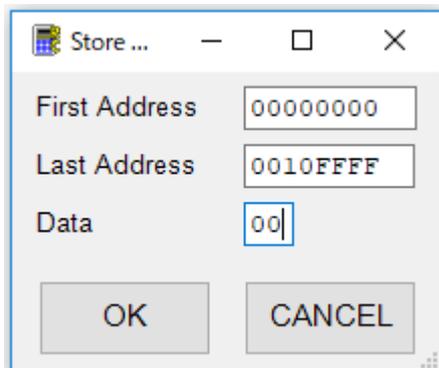
各デバイスファンクション実行時の動作は、定義体によって異なります。デバイスファンクションの名称と実際の動作が一致しない場合もありますので、デバイスファンクションごとの動作の詳細については、各定義体のマニュアルをご参照ください。

2.6. バッファメモリを固定データで書き換える

バッファメモリの指定範囲の値を任意の 1byte データで書き換えます。

[Basic Operation]タブの[Store Block]をクリックします。(1.2.の(5)参照)

データを書き換えたい領域と書きこむデータを入力してください。



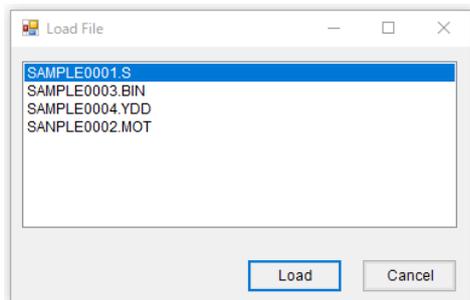
2.7. ファイルをロードする

カレント YIM フォルダに保存されているファイルを、バッファメモリにロードします。

ロードするファイルのフォーマットはモトローラ S、インテル HEX、バイナリの形式に対応しています。カレント YIM フォルダにオブジェクトデータを保存しておくことで、本操作にてターゲットシステムに書き込みをするデータの変更を行うことが可能です。

[Basic Operation]タブの「Load File」をクリックします。(1.2.の(6)参照)

ロードしたいファイルを選択し、「Load」をクリックします。



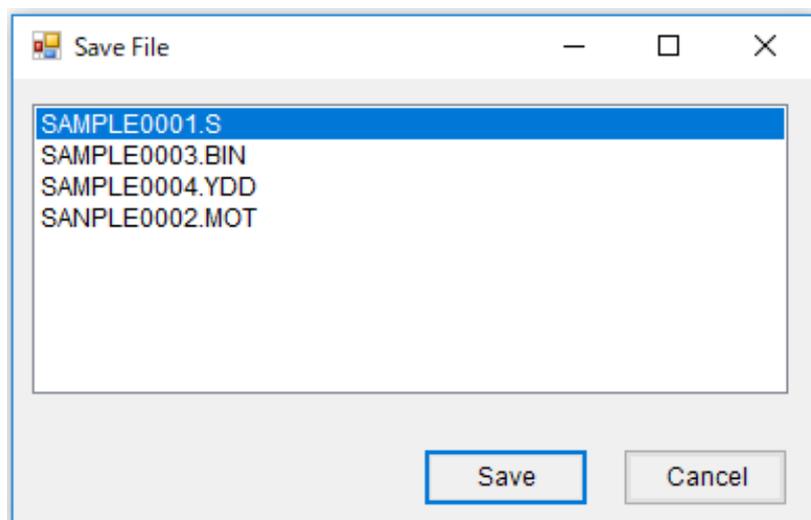
2.8. ファイルを保存する

バッファメモリのデータを、カレント YIM フォルダ内のファイルに保存します。

バッファメモリのバックアップをする場合等に使用します。

[Basic Operation]タブの「Save File」をクリックします。(1.2.の(6)参照)

セーブしたいファイルを選択し「Save」をクリックします。

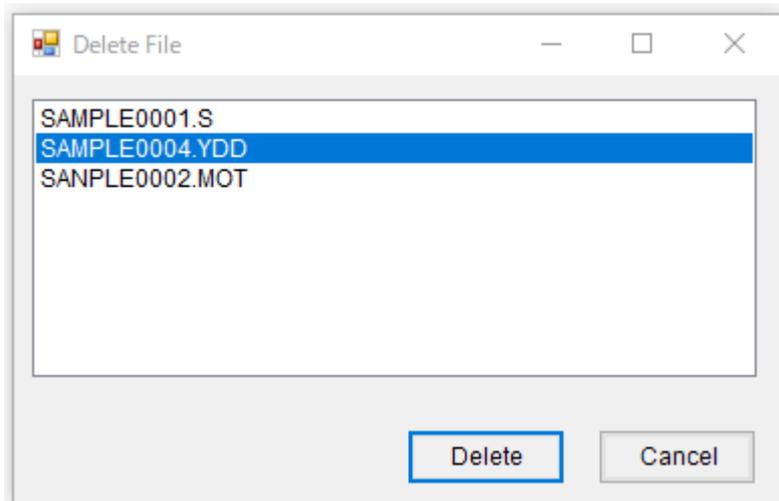


2.9. カレント YIM フォルダ内ファイルを消去する

[Basic Operation]タブの「Delete File」又は「Delete All File」をクリックします。(1.2.の(6)参照)

例) Delete File 実行時

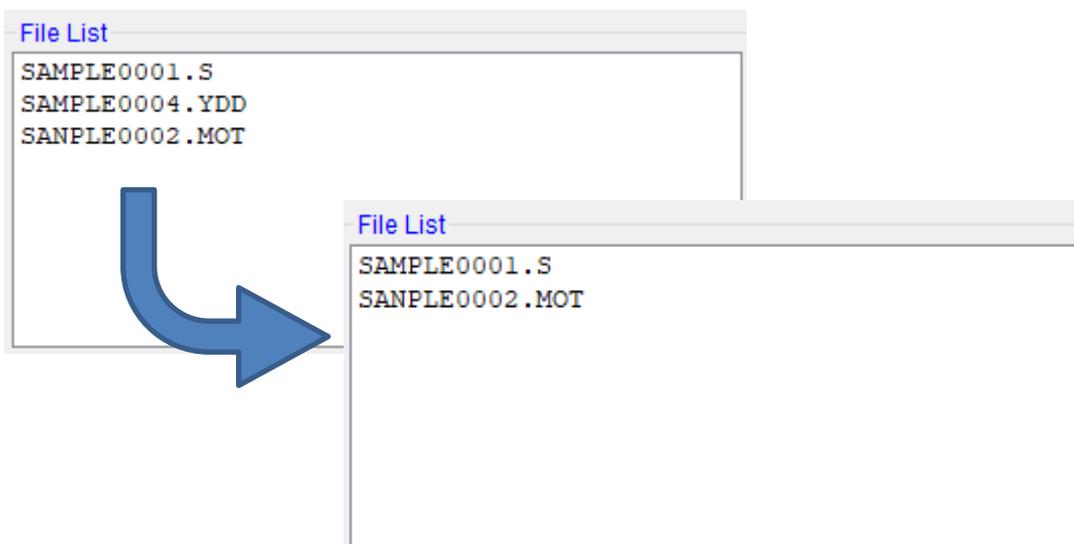
任意のファイルを選択し「Delete」をクリックしてください。



確認画面が表示されます。正しいか確認し、「OK」をクリックしてください。



File List でファイルが消去されたことを確認できます。



2.10. フラッシュメモリのブロック構成を変更する

[Parameter Table1]タブの「ROM Block Configuration」をクリックします。(1.3.の(8)参照)



必ず、ターゲットマイコンのブロック構成と一致させて下さい。

(1)開いたウィンドウ上部で対象領域の始めと終わりのアドレスを設定します。

(2)(1)で設定した領域内で Group1~14 までブロック単位で領域を設定することができます。
(※設定は Group 1 から順番に行ってください。)

(3)「OK」…設定した値で保存します。

「Reset」…表示ウィンドウ先で OK を押すと編集前の値に戻します。

「Cancel」…ウィンドウを閉じます。
(編集部分は保存されません。)

例)

ブロック群番号	スタートアドレス	ブロックサイズ
1	00000000h	00001000h
2	00004000h	00002000h
3	00010000h	00004000h
:	:	:

ブロックサイズが 2000h であるブロックが 6 つある事を意味します。

(次のブロック群の開始アドレスが 10000h なので、2000h のブロックが 6 つ入ります。)

ブロックサイズが 1000h であるブロックが 4 つある事を意味します。

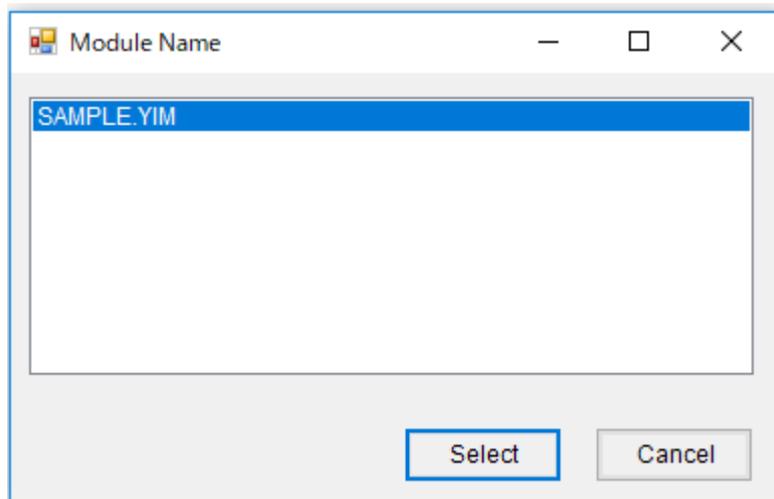
(次のブロック群の開始アドレスが 4000h なので、1000h のブロックが 4 つ入ります。)

2.11. YIM フォルダを選択する

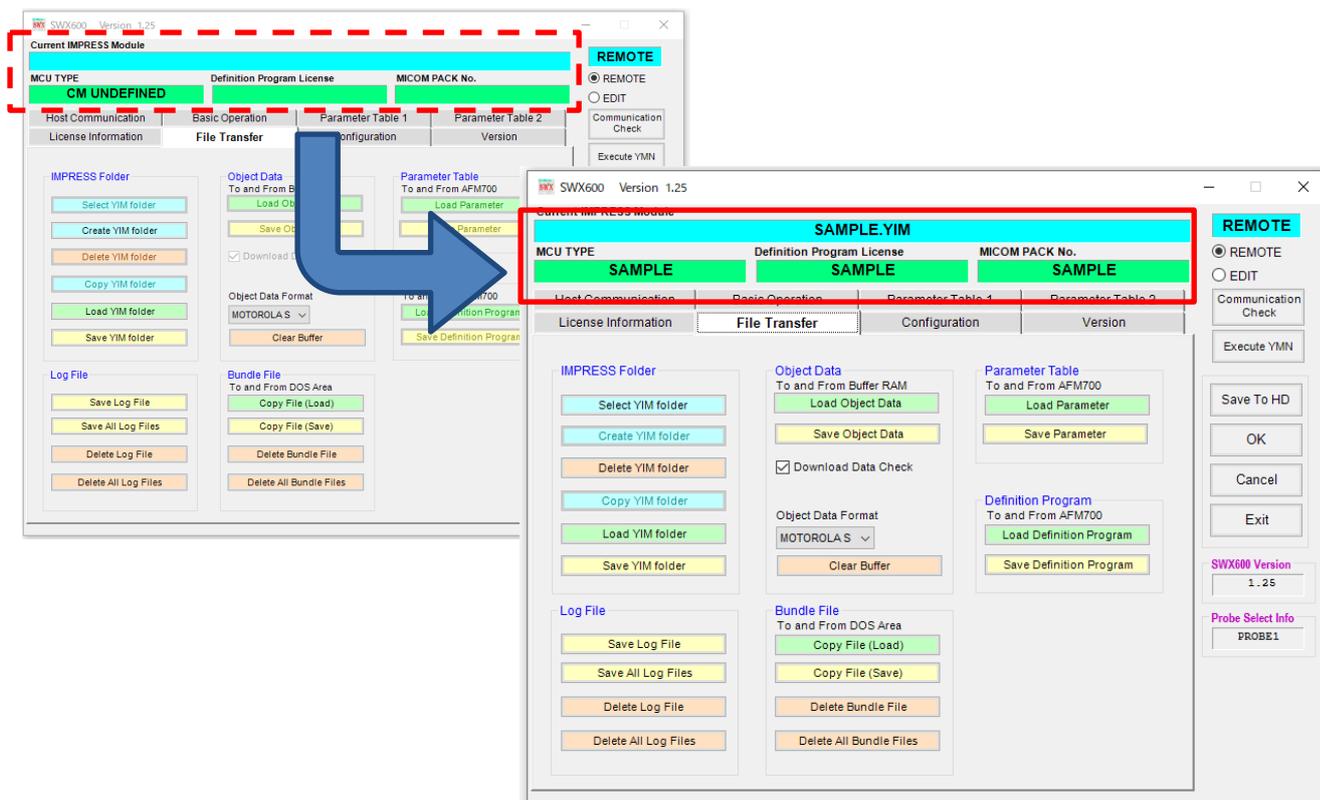
専用 SD カード内の YIM フォルダをカレント YIM フォルダに選択します。

[File Transfer]タブの「Select YIM folder」をクリックします。(1.6.の(1)参照)

選択したい YIM フォルダをクリックし、Select をクリックすると選択完了です。



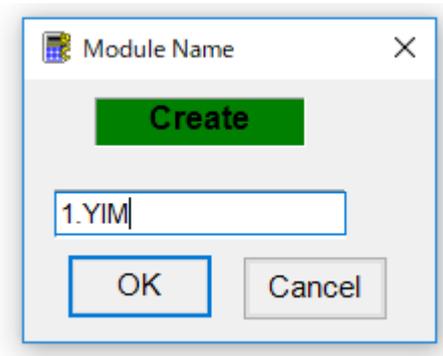
選択後 SWX600 上部の表示が変更されていることをご確認ください。



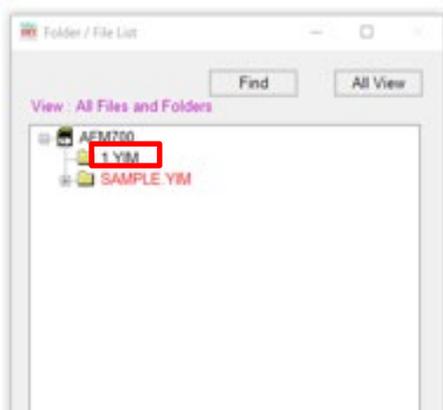
 別ウィンドウ Folder/File List 画面内の YIM フォルダを右クリックし、ポップアップメニューの「Select」から YIM フォルダを選択することもできます。

2.12. YIM フォルダを作成する

[File Transfer]タブの「Create YIM folder」をクリックします。(1.6.の(1)参照)

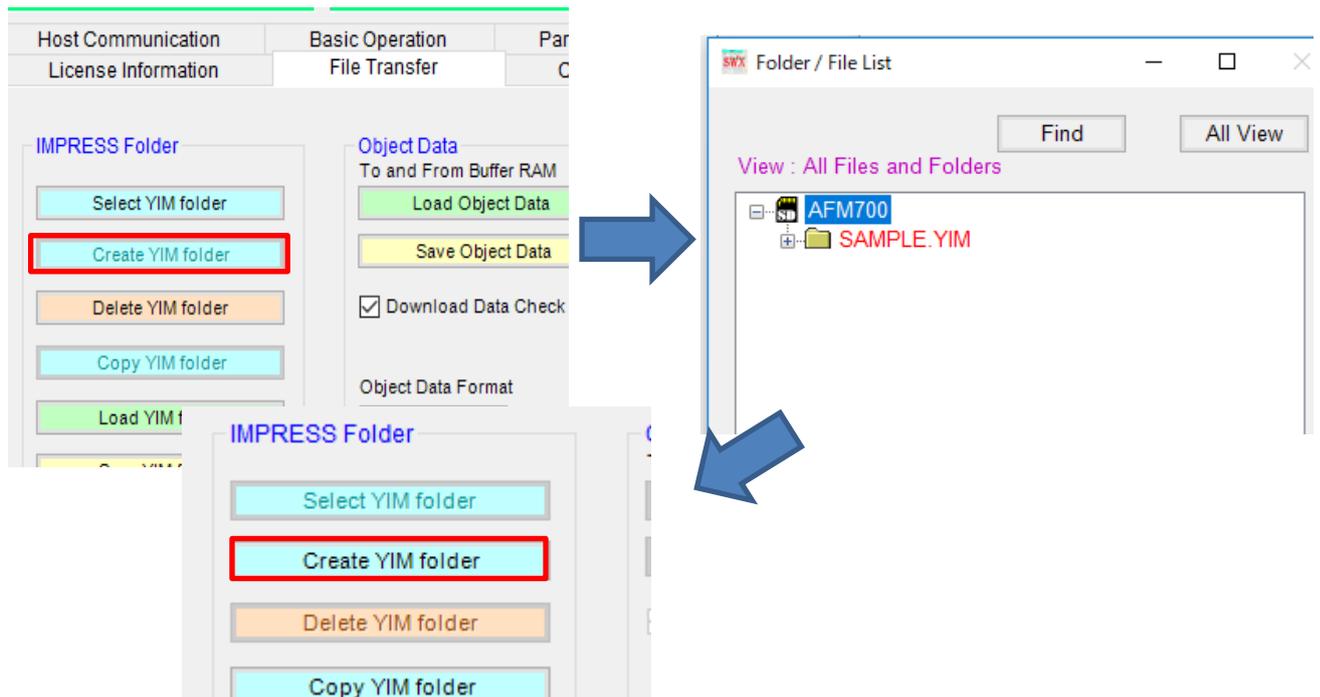


フォルダ名を入力し OK をクリックすると[Folder/File List]に作成したフォルダが追加されます。



- ✓ 「Create YIM folder」がクリック不可能状態の場合は別ウィンドウ[Folder/File List]で S Dカードを選択するとクリック可能になります。

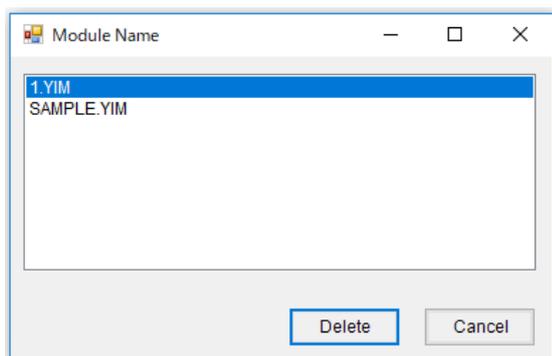
- ✓ 別ウィンドウ Folder/File List 画面内を右クリックし、ポップアップメニューの「Create」から YIM フォルダを作成することもできます。



2.13. YIM フォルダを消去する

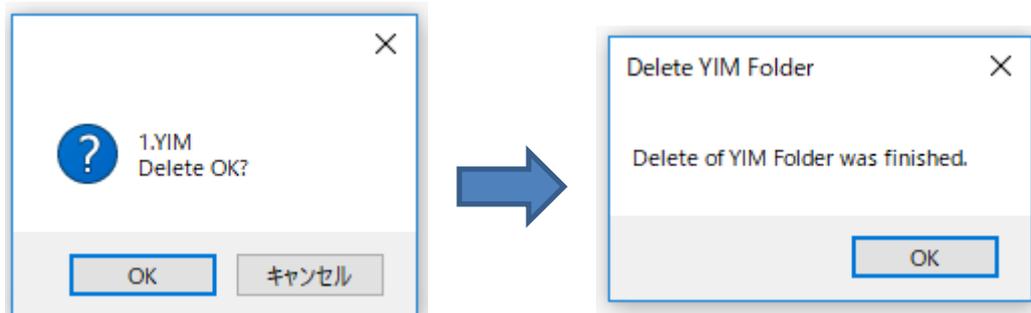
専用 SD カード内の YIM フォルダを消去します。

[File Transfer]タブの「Delete YIM folder」をクリックします。(1.6.の(1)参照)



(本機に差し込まれた SD カード内に保存されている YIM フォルダが表示されます。)
消去したいフォルダをクリックし Delete をクリックします。

OK をクリックすると消去完了です。



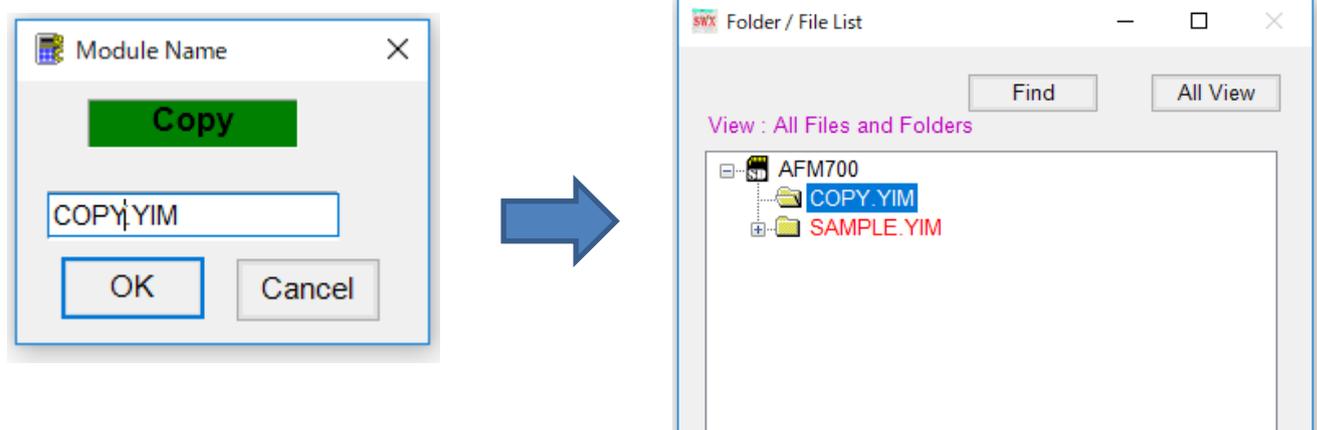
 フォルダ・ファイルリスト画面内で任意の YIM フォルダを右クリックし、ポップアップメニューの「Delete YIM folder」を選択して YIM フォルダを消去することもできます。

2.14. YIM フォルダを複製する

専用 SD カード内のカレント YIM フォルダを別名で専用 SD カード内にコピーします。

[File Transfer]タブの「Copy YIM folder」をクリックします。(1.6.の(1)参照)

任意の名前を入力し、OK をクリックすると[Folder/File List]にコピーされたフォルダが追加されます。



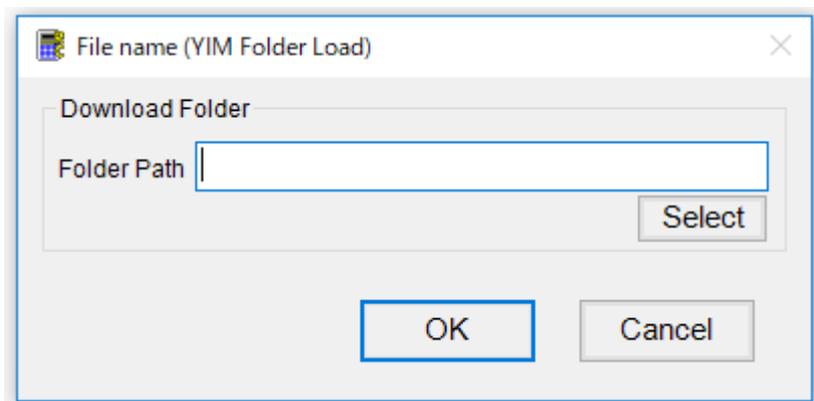
- ✓ フォルダ・ファイルリスト画面内で任意の YIM フォルダを右クリックし、ポップアップメニューの「COPY YIM folder」を選択して YIM フォルダを複製することもできます。

2.15. YIM フォルダをダウンロードする

PC 上の YIM フォルダを専用 SD カード内にダウンロードします。

[File Transfer]タブの「Load YIM folder」をクリックします。(1.6.の(1)参照)

「Select」をクリックし PC に保存されている YIM フォルダを指定して下さい。



「OK」をクリックすると[Folder/File List]にロードされたフォルダが追加されます。

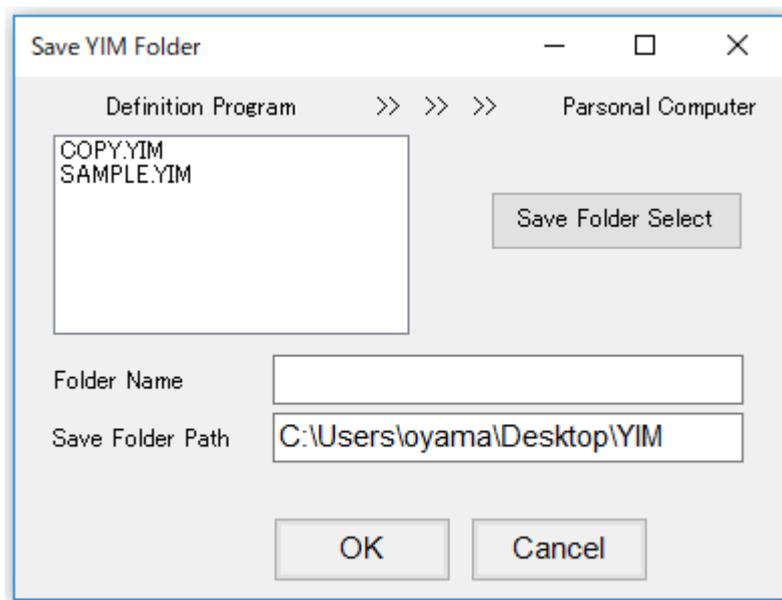
- ✓ フォルダ・ファイルリスト画面内で任意の YIM フォルダを右クリックし、ポップアップメニューの「Load YIM folder」を選択して YIM フォルダをダウンロードすることもできます。

2.16. YIM フォルダをアップロードする

カレント YIM フォルダをホスト PC 上にアップロードします。

[File Transfer]タブの「Save YIM folder」をクリックします。(1.6.の(1)参照)

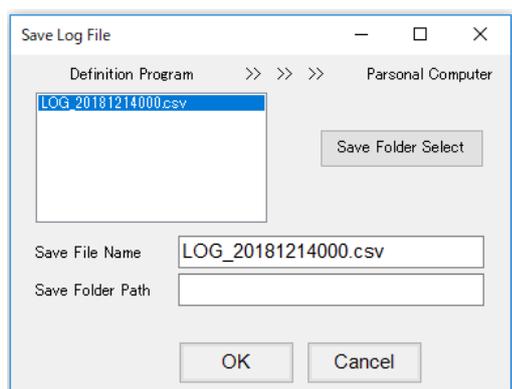
保存したい YIM フォルダと PC 上の保存先ディレクトリを指定し、「OK」をクリックすると保存されます。



- ✓ フォルダ・ファイルリスト画面内を右クリックし、ポップアップメニューの「Save YIM folder」を選択して YIM フォルダを PC にアップロードすることもできます。

2.17. SD カード内のログファイルを保存する

[File Transfer]タブの「Save Log File」又は「Save All Log Files」をクリックします。(1.6.の(2)参照)

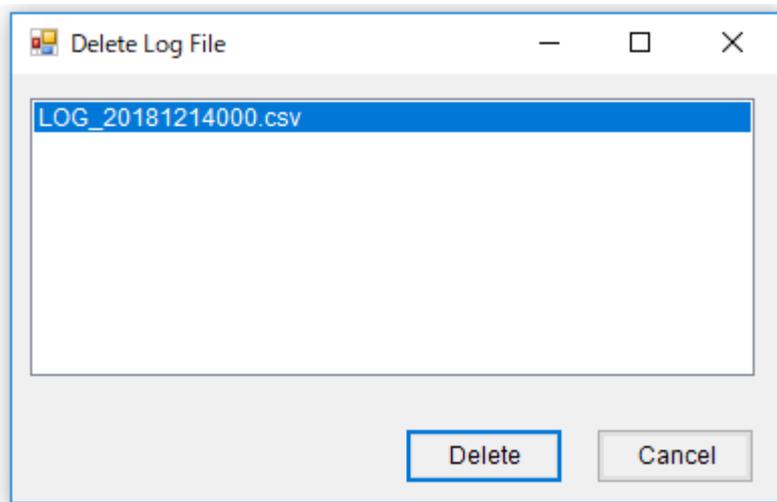


保存先設定画面が表示されますので、保存したいログファイルおよびログファイルの保存先を選択後、「OK」ボタンをクリックします。ログファイルの保存を中止したい場合は「Cancel」ボタンをクリックします。

2.18. ログファイルをSDカード内から消去する

[File Transfer]タブの「Delete Log file」又は「Delete All Log Files」をクリックします。(1.6.の(2)参照)

例) Delete Log file クリック時

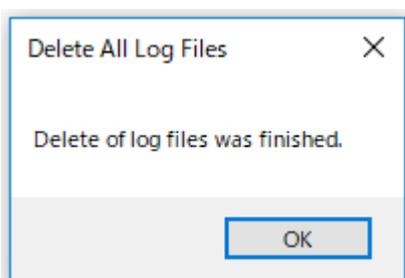


ログファイル消去画面が表示されますので、消去するログファイルを選択後、“Delete”ボタンをクリックします。ログファイルの消去を中止したい場合は“Cancel”ボタンをクリックします。

例) Delete All Log Files クリック時



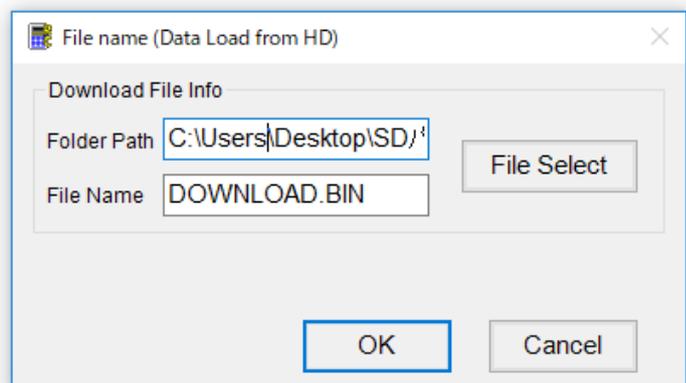
クリックすると下図メッセージが表示され全てのログデータが消去されます。
消去したログデータは復元できませんのでご注意ください。



2.19. オブジェクトファイルをダウンロードする

カレント YIM フォルダのバッファメモリに PC からオブジェクトファイルをダウンロードします。

フォルダ・ファイルリスト画面のカレント YIM フォルダを選択後、[File Transfer]タブの「Load Object Data」をクリックします。(1.6.の(3)参照)



オブジェクトファイル選択画面が表示されますので、ダウンロードしたいオブジェクトファイルを選択後、「OK」をクリックします。

※上記操作前に[File Transfer]タブの「Download Data Check」にチェックを入れておくと、

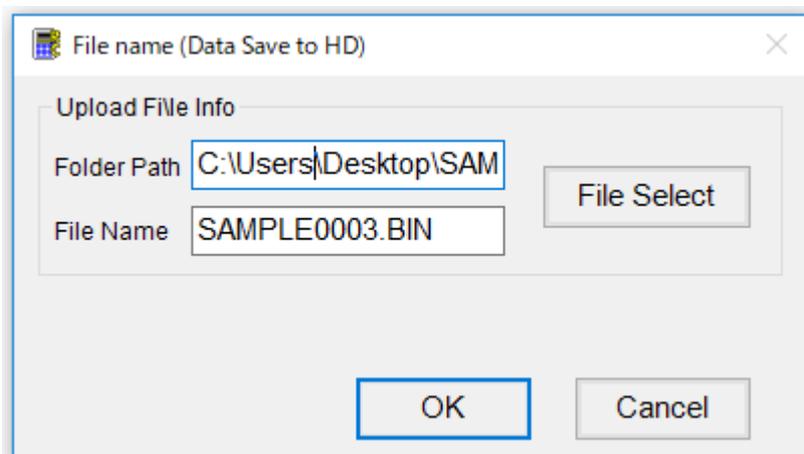
ファイルデータが Buffer Area で指定されているアドレス範囲外の場合に、ワーニングを出力します。

2.20. オブジェクトファイルをアップロードする

カレント YIM フォルダのバッファメモリをホスト PC 上へアップロードします。

[File Transfer]タブの「Save Object Data」をクリックします。(1.6.の(3)参照)

保存先選択後ファイル名を入力し「OK」をクリックしてください。



保存するオブジェクトファイルのフォーマットは「Object Data Format」で設定した形式になります。形式はモトローラ S 又はインテル HEX から選択可能です。

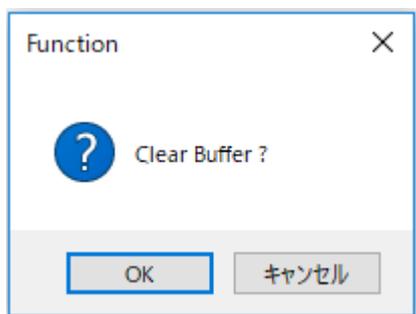
Format を変更する場合、フォーマット選択後、メイン画面共通部分の「OK」をクリックすることで反映されます。

2.21. バッファメモリをクリアする

カレントYIM フォルダのバッファメモリを初期化します。

[File Transfer]タブの「Clear Buffer」をクリックします。(1.6.の(3)参照)

確認画面が表示されますので「OK」をクリックします。



- ✓ バッファメモリのクリアを実行すると、バッファメモリ全領域の値がパラメータで指定された値に初期化されます。

2.22. バンドルファイルをダウンロードする

カレント YIM フォルダ内にファイルをダウンロードします。

[File Transfer] タブの「Copy File(Load)」をクリックします。(1.6.の(4)参照)

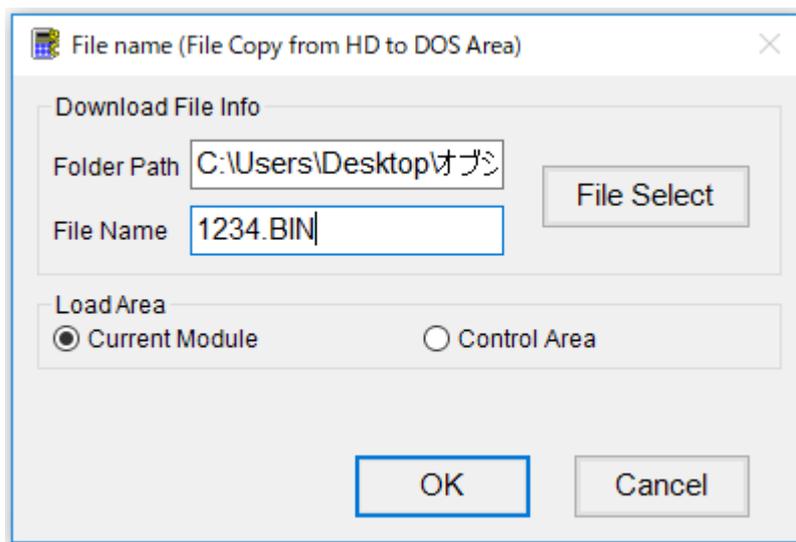
下図ウィンドウが表示されますので、ダウンロードしたいファイルを選択します。

続いて、Load Area を選択してください。

Load Area Current Module …カレント YIM フォルダ内にダウンロードします。

Control Area …S Dカードのルートディレクトリにダウンロードします。

「OK」をクリックするとダウンロードを開始します。



2.23. バンドルファイルをアップロードする

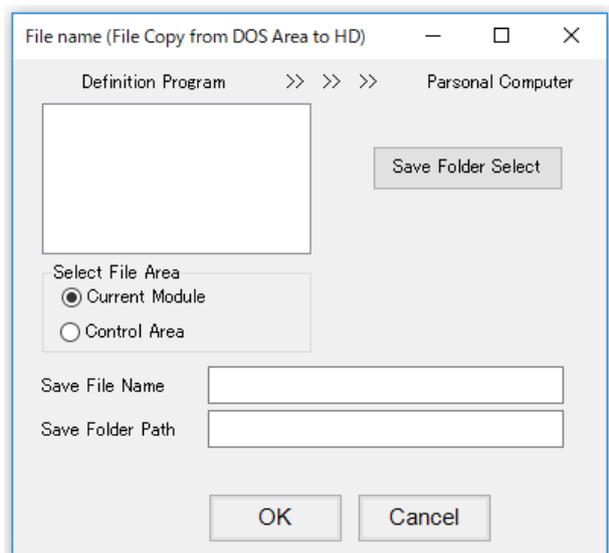
専用SDカード内のバンドルファイルをPCにアップロードします。

[File Transfer]タブの「Copy File (Save)」をクリックします。(1.6.の(4)参照)

保存先フォルダパス指定後ファイル名を入力してください。

Select File Area Current Module…カレントYIMフォルダ内のファイルをPCに保存します。

Control Area …専用SDカードのルートにあるファイルをホストPCに保存します。



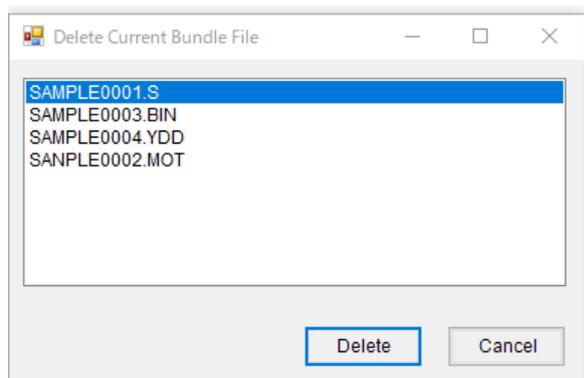
2.24. バンドルファイルを消去する

カレントYIMフォルダ内のバンドルファイルを消去します。

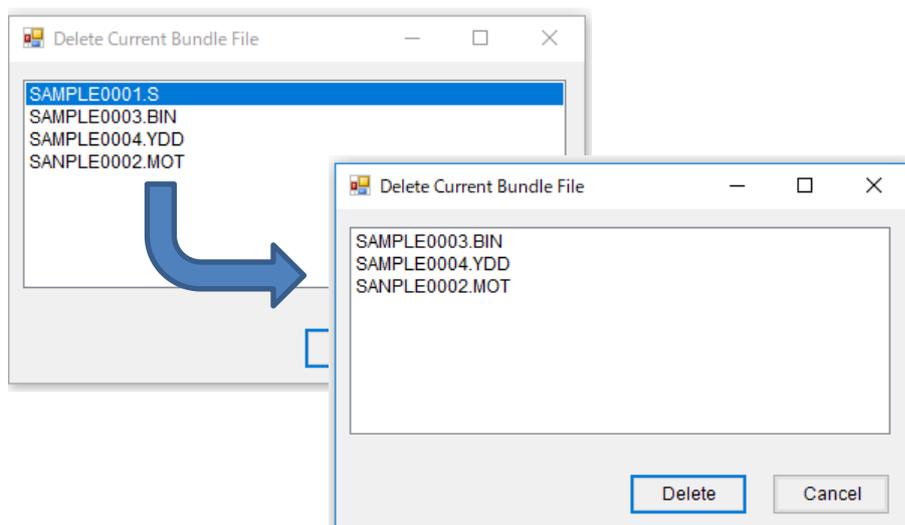
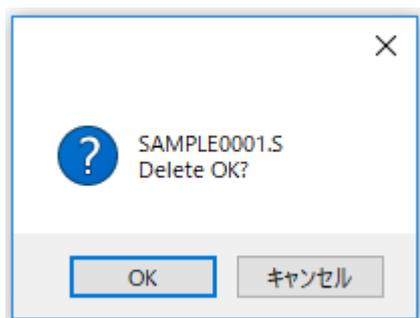
[File Transfer]タブの「Delete Bundle File」又は「Delete All Bundle File」をクリックします。
(1.6.の(4)参照)

例) 「Delete Bundle File」実行時

下図ウィンドウが表示されますので削除したいファイルを選択後、「Delete」をクリックします。



確認画面が表示されますので「OK」をクリックすると削除されます。



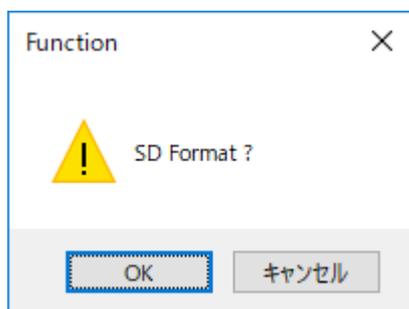
2.25. SDカードを初期化する

SDカードを初期化します。初期化を行うとカード内のデータは消去されます。

(ライセンス情報は消去されません。)

[License Information]タブの「Format」をクリックします。(1.5.の(3)参照)

下図ウィンドウが表示されますのでOKをクリックします。



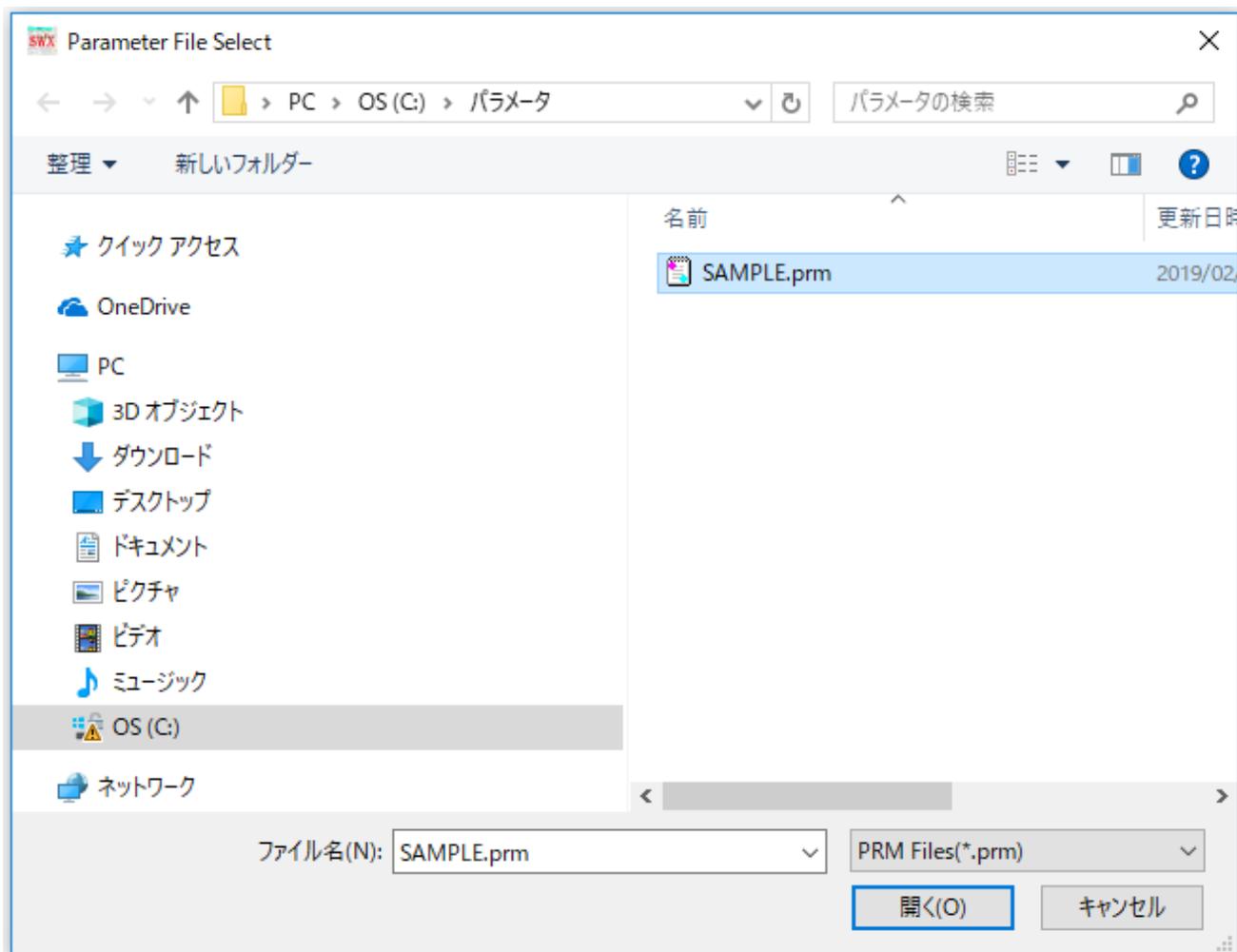
PC等にあらかじめバックアップをとっておくことをお勧めします。

2.26. パラメータファイルをダウンロードする

PC からパラメータファイルをカレント YIM フォルダにダウンロードします。

[File Transfer]タブの「Load Parameter」をクリックします。(1.6.の(5)参照)

ダウンロードしたいパラメータファイルを選択し「開く」をクリックしてください。



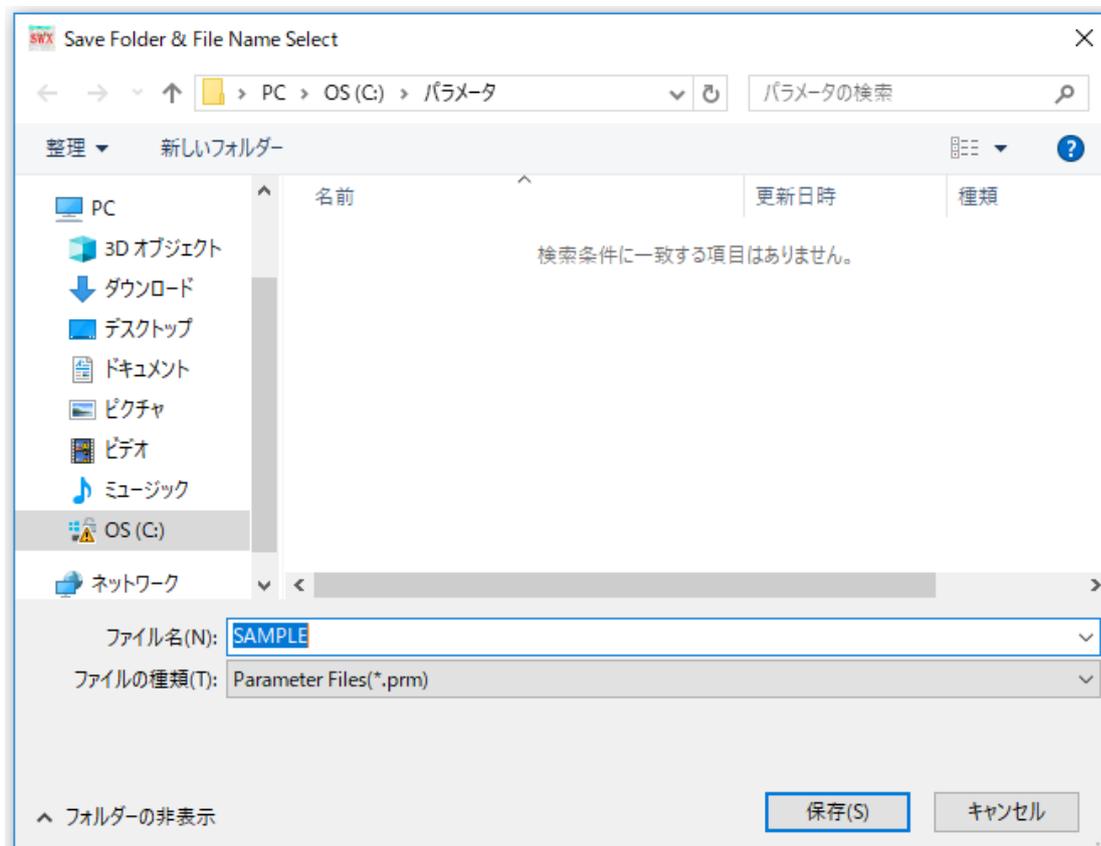
-  カレント YIM フォルダにダウンロードされている定義体に適用できないパラメータファイルをダウンロードしようとすると、エラーとなります。
-  カレント YIM フォルダにダウンロードされているパラメータファイルと異なるファイルをダウンロードした場合、バッファメモリはクリアされます。

2.27. パラメータファイルをアップロードする

カレント YIM フォルダのパラメータファイルを PC 上に保存します。

[File Transfer]タブの「Save Parameter」をクリックします。(1.6.の(5)参照)

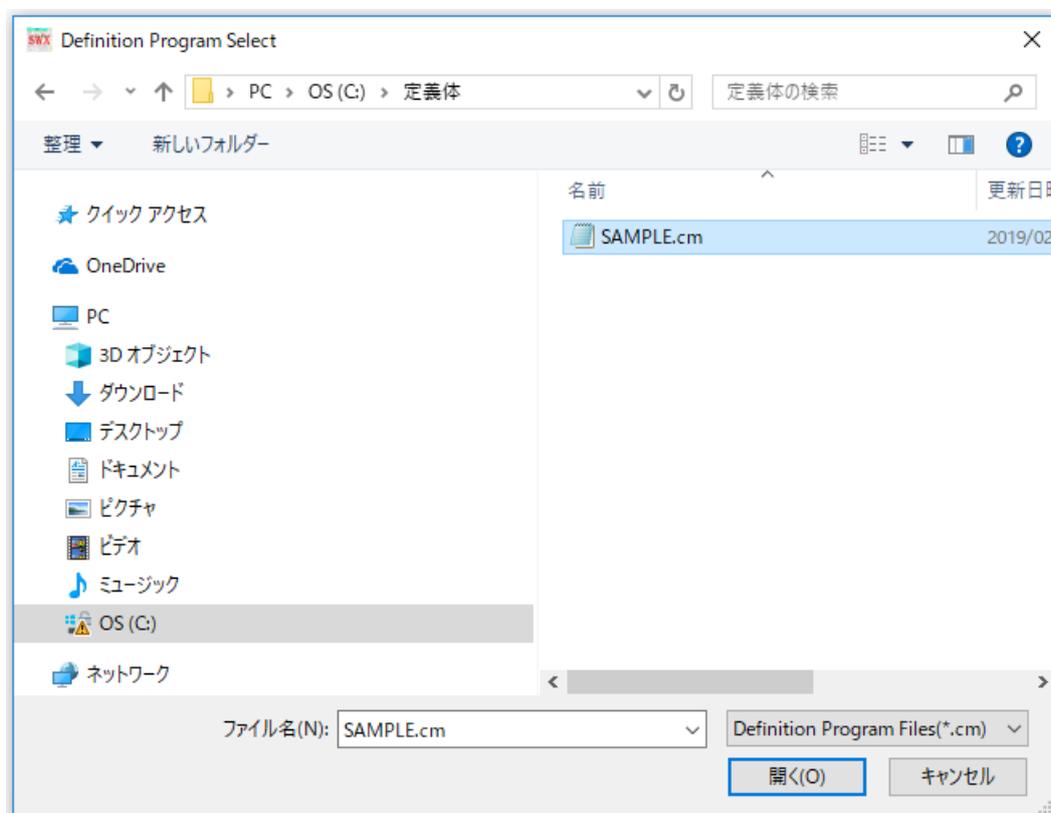
保存先を指定後ファイル名を入力し「保存」をクリックしてください。



2.28. 定義体ファイルをダウンロードする

PC上の定義体ファイルをカレント YIM フォルダにダウンロードします。

[File Transfer]タブの「Load Definition Program」をクリックします。(1.6.の(6)参照)
ダウンロードしたい定義体（.CM ファイル）を選択し「開く」をクリックしてください。

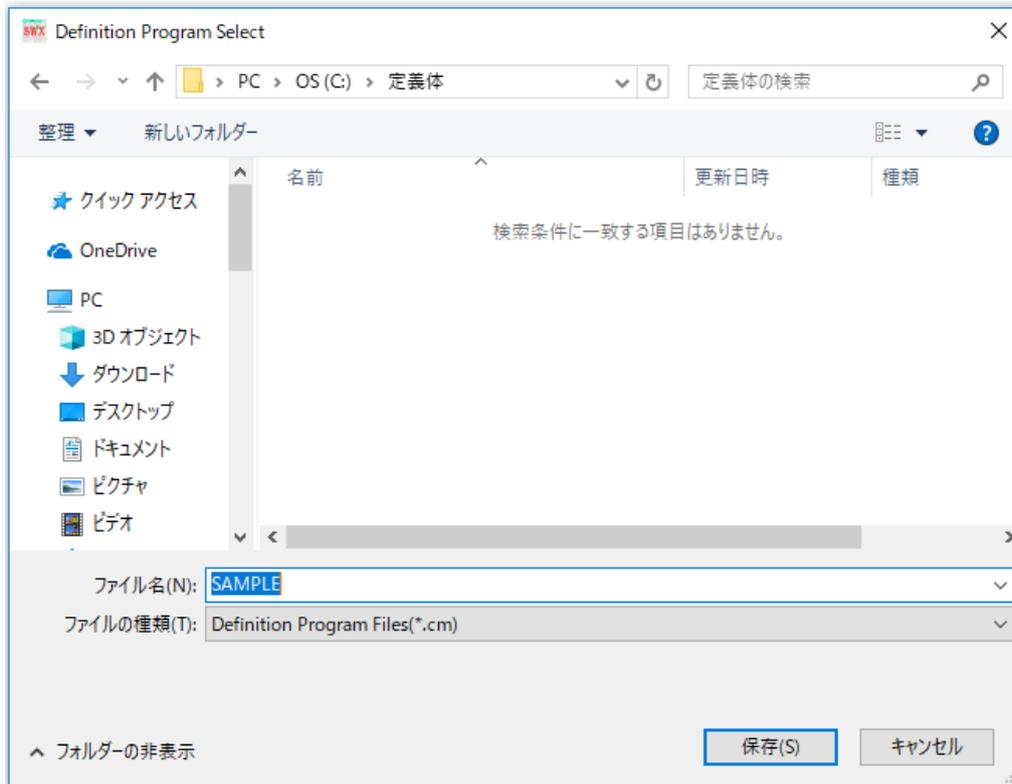


2.29. 定義体ファイルをアップロードする

カレント YIM フォルダ内の定義体ファイルを PC 上に保存します。

[File Transfer]タブの「Save Definition Program」をクリックします。(1.7.の(6)参照)

保存先を指定しファイル名を入力して「保存」をクリックしてください。

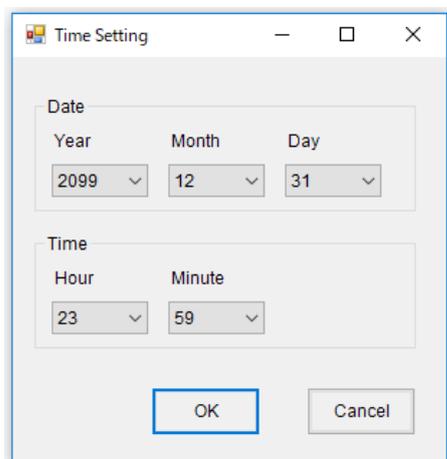


2.30. 日付と時間を設定する

本体へ日付と時間の設定を行います。

[Configuration]タブの「System Time」をクリックします。(1.7.の(1)参照)

下図ウィンドウが表示されますので、現在の時間を設定してください。



The screenshot shows a 'Time Setting' dialog box. It contains two main sections: 'Date' and 'Time'. The 'Date' section has three dropdown menus for 'Year' (2099), 'Month' (12), and 'Day' (31). The 'Time' section has two dropdown menus for 'Hour' (23) and 'Minute' (59). At the bottom, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.



本機に設定されている時計の±24時間の幅で設定が行えます。

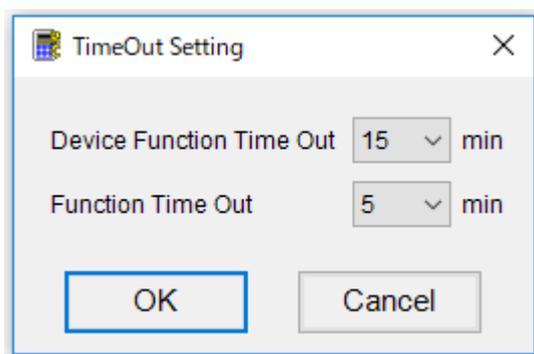
現地時間に合わせて設定を行なってください。

2.31. タイムアウト時間を設定する

デバイスファンクション、ファンクションのタイムアウト時間を設定します。

[Configuration]タブの「Time Out」をクリックします。(1.7.の(1)参照)

デバイスファンクション、ファンクションそれぞれに対して設定が可能です。



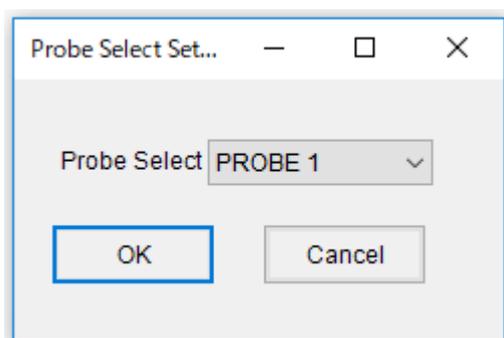
2.32. プロブ設定を変更する

使用するプロブを設定します。

[Configuration]タブの「Probe Select」をクリックします。(1.7.の(1)参照)

設定タイプは以下の3種類です。

- ・ H/W …ハードウェアの状態によりプロブが選択されます。
 プロブハード (PHX4**) のプロブセレクト信号 (LOW レベル入力でアクティブ)
 により選択されます。両方ともアクティブの場合は Target Probe1 を選択します。
- ・ PROBE1…プロブ 1 で固定します。
- ・ PROBE 2…プロブ 2 で固定します。

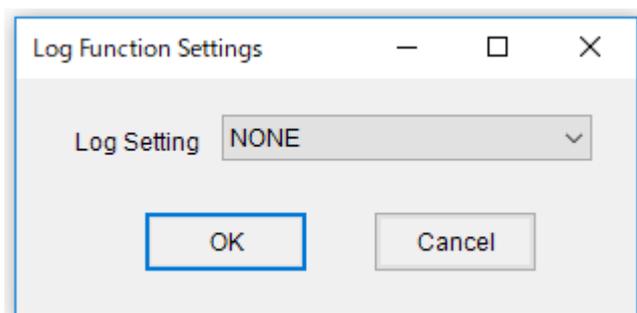


2.33. ログ保存機能を有効にする

[Configuration]タブの「Log Setting」をクリックします。(1.7.の(1)参照)

設定タイプは以下の3種類です。

- ・ NONE …コマンド実行ログを保存しない
- ・ Device Function …デバイスファンクションの実行ログのみ保存する
- ・ Device Function&Function …全てのコマンド実行ログを保存する

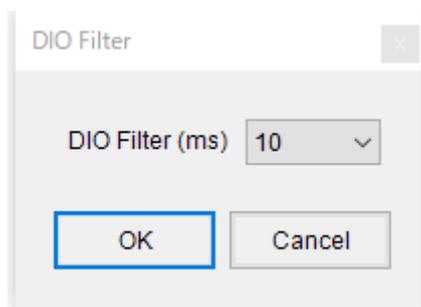


2.34. DIO フィルタを設定する

DI/O の本体側入力信号のフィルタ時間設定を設定します。

設定範囲は、1～255[ms]の範囲です。

[Configuration]タブの「DIO Filter」をクリックします。(1.7.の(1)参照)



2.35. DIO 制御を実行する

DI/O の入出力制御を行います。

設定範囲は、1～255[ms]の範囲です。

[Configuration]タブの「DIO Control」をクリックします。(1.7.の(1)参照)



OUT Control では、DIO インターフェースの出力端子を制御することができます。

1) ポートの設定 (0 - 7)

各ポート番号に対応する信号は下表の通りです。

ポート	Pin No.	Signal name
0	6	Digital I/O OUT0
1	21	Digital I/O OUT1
2	22	Digital I/O OUT2
3	23	Digital I/O OUT3
4	24	Digital I/O OUT4
5	3	PASS
6	4	ERROR
7	5	RUN

➡ DIO インターフェースの詳細は別途「NETIMPRESS avant Flash Programmer ハードウェアマニュアル」も併せてご参照ください。

2) Low or High (ボタンの押下による指定)

3) 【OUT】ボタンの押下で出力を実行します。

IN Control では指定したポートのレベル状態を取得できます。

1) ポートの設定 (0 - 4)

各ポート番号に対応する信号は下表の通りです。

ポート	Pin No.	Signal name
0	13	Digital I/O IN0
1	14	Digital I/O IN1
2	15	Digital I/O IN2
3	16	Digital I/O IN3
4	28	Digital I/O IN4

 DIO インターフェースの詳細は別途「NETIMPRESS avant Flash Programmer
ハードウェアマニュアル」も併せてご参照ください。

2) Low or High (端子のレベル状態を表示します)

3) 【LOAD】 ボタンの押下で状態取得を実行します。

3.パラメータ変更ツールとして使用する

定義体は、代表マイコンと同一のプロトコル及びアルゴリズムをもつ複数のマイコンへの応用を容易にするため、その一部をユーザディファインナブルなパラメータとして開放しています。

SWX600 リモートコントローラは、Remote Mode では、NET IMPRESS の中に実装された定義体のパラメータ変更ツールとして、Edit Mode では、パーソナルコンピュータ上でのパラメータファイル (*.prm) の変更ツールとしてご利用いただけます。

Remote Mode でのパラメータの変更は次の順番で3つのウィンドウを順次に開いて設定していきます。各ウィンドウの設定が終了したら、その都度 OK ボタンを押してその内容を NET IMPRESS に実装された定義体へ転送/設定を行います。

Edit Mode でのパラメータの変更手順も各ウィンドウを順次に開いていき設定しますが、設定終了時には、“Save to HD”ボタンにより、変更を行ったパラメータファイルをパーソナルコンピュータに保存してください。



保存したパラメータファイルは NET IMPRESS に実装された SD カードにダウンロードして使用してください。

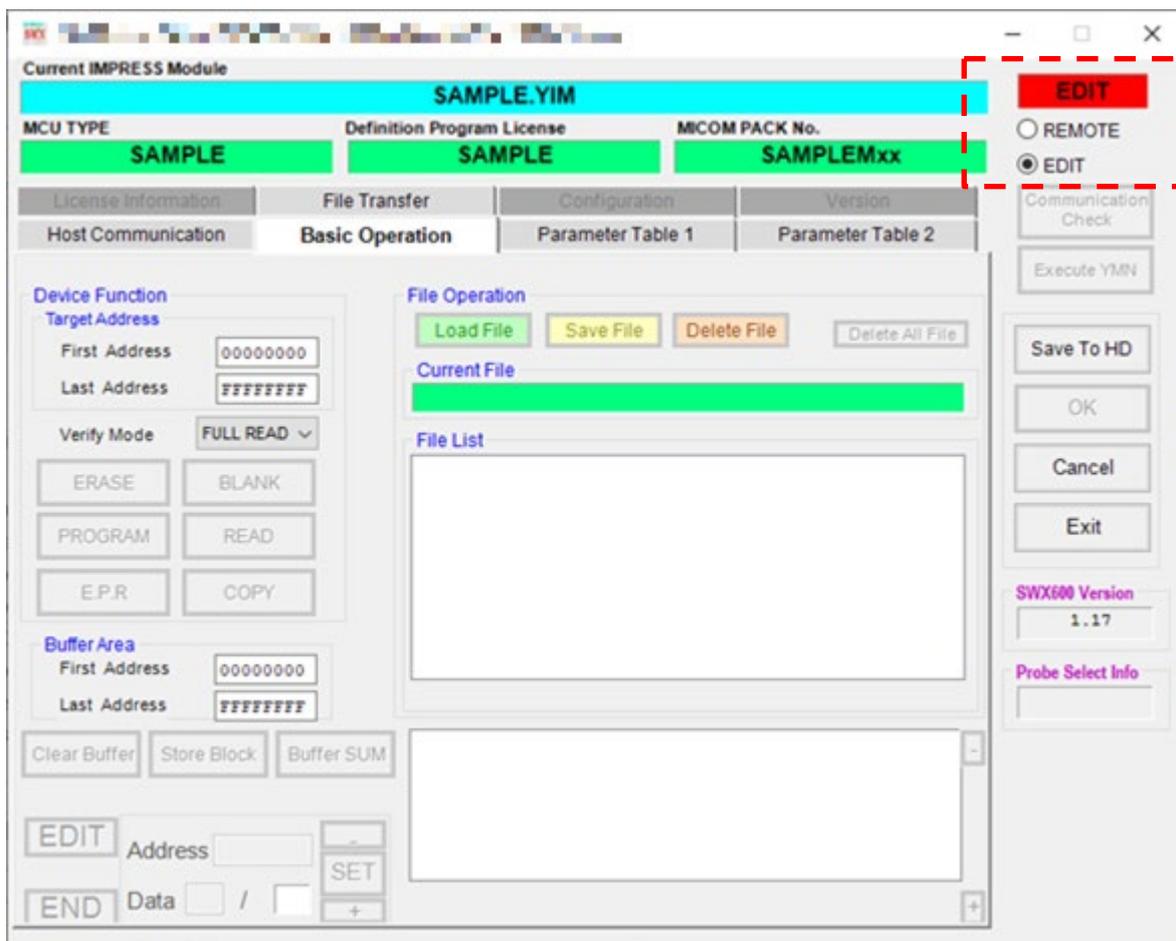
パラメータテーブルを変更する場合には、ターゲットシステム (マイコン) との接続は不要ですが、



パラメータテーブルを変更すること以外の目的で本器をご利用の場合には、ターゲットシステムと接続して下さい。

3.1. Edit Mode でのパラメータファイルの編集

ライタとの接続を必要とせずに、パーソナルコンピュータ上のパラメータファイル (*.prm) を編集、保存することができます。

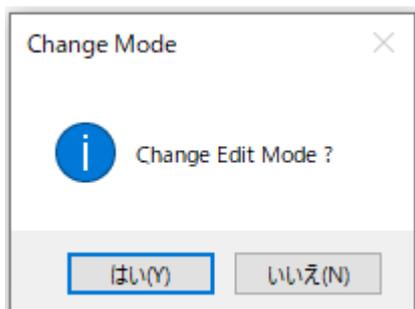


Edit Mode でパラメータファイルを編集することができます。

Edit Mode にモードを切替える場合は、画面右上のチェックボックスを使用します。

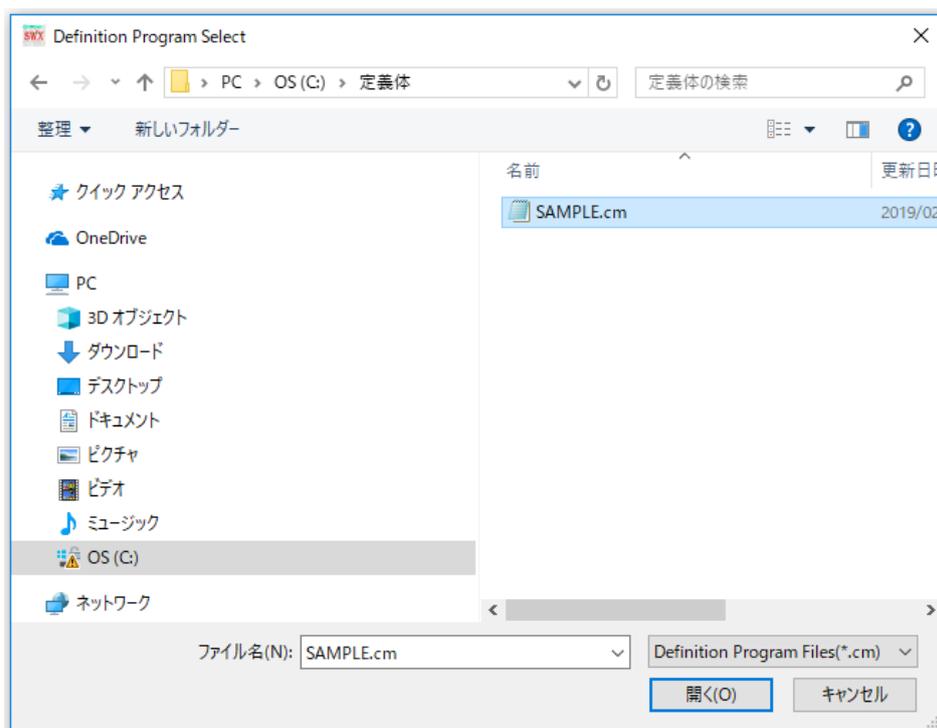
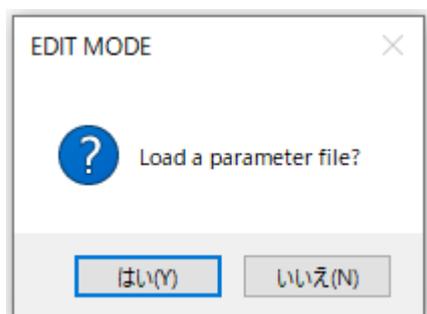
EDIT を選択すると、下記メッセージが表示されモード切替の確認が行われます。

Edit Mode を使用する場合には、“はい”を選択してください。



Edit Mode に切替えた場合、リモートコントローラで既に読みを行っているパラメータテーブルの他に、パーソナルコンピュータ上にあるパラメータファイルの読み込み、パラメータテーブルを編集することができます。

パラメータファイルの読み込みを行う場合には、“はい”を選択し、表示されるファイル選択画面によりパラメータファイルを選択し、読み込みを行ってください。



パラメータテーブルの編集、パラメータファイルの作成については、Remote Mode と同様です。

画面右部にある“Save to HD”ボタンを押して、PC 上にファイルとして格納することができます。

- ・パラメータ編集が終わりましたら、画面右部にある“Save to HD”ボタンを使用してファイルとして格納します。
- ・ダウンロードを行う SD カードをライターに挿入し、Remote Mode にてライターとの接続を行います。
- ・Load Parameter ボタンにて、SD カードにパラメータファイルのダウンロードを行います。

4.エラー一覧

エラーコード	内容	詳細
63:NEW FILE ERR	ログファイルの設定が正しくない	ユニバーサルコマンドのログファイルの設定が正しくありません。
100:File not found.	ファイルが存在しない	ファイルの存在を確認してください。
101:File access error.	ファイルにアクセスができない	ファイルが壊れている可能性があります。ご確認ください。
102:File format error.	ファイルフォーマット異常	ファイルフォーマットを確認してください。
103:Irregular parameters	パラメータ異常	パラメータファイルを確認してください。
104:Con not use double byte character to filename	2バイト文字使用エラー	ファイル名には2バイト文字を使用できません。ファイル名を確認してください。
110:Can not Connected to NETIMPRESS. xx	接続異常	PC-ライタの接続を確認してください。
111:NETIMPRESS Time Out. xx	通信タイムアウト	PC-ライタの接続を確認してください。 ターゲット-ライタの通信を確認してください。
112:Invalid data.	データ設定エラー	正しい値を設定してください。
115:The search name is not defined	検索ファイルエラー	検索するファイル名を入力してください。
116:File Name Error	ファイル名エラー	ファイル名が正しくありません。 ファイル名を確認してください。
117:Folder Name Error	フォルダ名エラー	フォルダ名が正しくありません。 フォルダ名を確認してください。
118:Folder not found.	フォルダエラー	フォルダが存在しません。 フォルダの存在を確認してください。
120:Device function error.	デバイスファンクション実行エラー	デバイスファンクション実行時にエラーが発生しました。
121:Command Not Support	コマンド非対応	コマンドに対応していません。
122:YIM Folder System Error	YIM フォルダ体系エラー	YIM フォルダの体系が正しくありません。
123:Folder Path Error	セーブ先フォルダパスエラー	セーブ先のフォルダが存在しません。
124:YIM Folder Name Error.	YIM フォルダ名エラー	YIM フォルダが選択されていません。 正しいYIM フォルダを選択してください。
125:YIM Folder Save Error.	YIM フォルダセーブエラー	YIM フォルダのセーブ時にエラーが発生しました。

エラーコード	内容	詳細
126:Log file access error.	ファイルアクセスエラー (Log/Current File/Root File/YIM Folder)	ファイルのアクセス時にエラーが発生しました。
127:Time Set Error	ライター時間・システム時間の登録エラー	時間設定時にエラーが発生しました。
128:Log Function Set Error	ログ条件設定エラー	ログ条件の設定時にエラーが発生しました。
129:Writer Time Error	ライター時間の設定エラー	ライター時間の取得時にエラーが発生しました。 ライターとの通信に問題があるか、ライターに設定された時間に問題があります。 ライターに設定された時間に問題がある場合は、弊社サポートセンタへご連絡ください。
130:Probe Select Error	プローブセレクト設定時のエラー	プローブセレクト設定時にエラーが発生しました。
131:Time Parameter Error	プログラマ時間設定パラメータエラー	プログラマに設定する時間が正しくありません。
132:DIO Filter Setting Error	DIO フィルタ設定エラー	DIO フィルタ設定時にエラーが発生しました。
133:Format error.	送信データフォーマットエラー	ライターから送信されたデータのフォーマットが正常ではありません。弊社サポートセンタへご連絡下さい。
140:Remote2.ini File Format Error	Remote2.ini ファイルエラー	Remote2.ini ファイルのフォーマットが正しくありません。
170:Serial Number set Error	シリアル番号設定エラー	シリアル番号設定時にエラーが発生しました
200:Definition Program Undefined.	Definition Program 設定エラー	Definition Program が設定されていません。Definition Program をダウンロードしてください。
201:Module not found.	YIM フォルダ選択エラー	YIM フォルダが存在しません。
202:Download File Unmatching.	パラメータファイルエラー	ロードするパラメータファイルが正しくありません。パラメータファイルを確認してください。
203:Module Name is too long.	ファイル名エラー	ファイル名が長すぎます。 ファイル名を確認して下さい。
204:YIM Folder Full	YIM フォルダフル	YIM フォルダをこれ以上作成できません。必要ないフォルダを削除してください。

エラーコード	内容	詳細
205:Control File Full	コントロールファイルフル	コントロールファイルをこれ以上作成できません。必要のないファイルを削除してください。
206:Current Module File Full	カレント YIM フォルダファイルフル	カレント YIM フォルダにこれ以上ファイルを作成することが出来ません。必要のないファイルを削除してください。
207:YIM folder is not selected.	YIM フォルダ未選択エラー	YIM フォルダが選択されていません。 YIM フォルダを選択してください。
300:YMN Execute error.	YMN 実行時エラー	YMN 実行時にエラーが発生しました。 YMN ファイルが正しいか確認して下さい。
400:Read License Format Error	ライセンス読み出しエラー	ライセンスが登録されているのか確認してください。
500:AFX_FPGA_Ver Invalid	サブシステムバージョン取得エラー	サブシステムバージョンの設定を確認してください。
600:Backlight Setting Error	LCD バックライト設定エラー	LCD バックライトの ON/OFF 切り替え設定時にエラーが発生しました
900:This function is not support.	実行ファンクションエラー	このファンクションには対応しておりません。
901:Folder is not selected.	YIM フォルダが選択されてない	YIM フォルダを選択してから実行して下さい。
1066:Full Path Error!	フルパスエラー	ファイル・フォルダのフルパス入力が正しくないか、そのパス上にファイル・フォルダが存在しません。

エラーコード	内容	詳細
Not Execute	YIM フォルダ選択未実行エラー	YIM フォルダが正しく選択されていません。
Busy	他コマンド実行中	他のコマンドが実行中です。 コマンド終了後、次のコマンドを実行してください。
xxx:FILE OPEN ERR	ファイルオープンエラー	ファイルのオープン時にエラーが発生しました。
xxx:FILE CLOSE ERR	ファイルクローズエラー	ファイルのクローズ時にエラーが発生しました。
xxx:FILE ACCESS ERR	ファイルアクセスエラー	ファイルのアクセス時にエラーが発生しました。
xxx:S FORMAT ERR	モトローラ S フォーマットエラー	モトローラ S フォーマットのファイルでフォーマットが正しくありません。
xxx:HEX FORMAT ERR	インテル HEX フォーマットエラー	インテル HEX フォーマットのファイルでフォーマットが正しくありません。
xxx:FORMAT ERR	フォーマットエラー	ファイルのフォーマットが正しくありません。
xxx:ERR UNKOWN	予期せぬエラー	予期せぬエラーが発生しました。
Other command executing	コマンド実行中	他のコマンドが実行中です。
Parameters are not set into NETIMPRESS	パラメータ変更未登録	変更したパラメータがありますが、登録されていません。
No Item	項目未入力	YIM フォルダ・YMN ファイルが設定されていません。
Buffer Area(FUNC F5) Data Error	設定エラー	バッファ領域の設定が正しくありません。
Device Function Area(FUNC-0) Data Error	設定エラー	デバイスファンクション実行領域の設定が正しくありません。
TVcc Threshold Data Error	設定エラー	TVcc スレッシュホールドの設定が正しくありません。
Flash ROM First Address Data Error	設定エラー	フラッシュメモリ開始アドレスの設定が正しくありません。
Flash ROM Last Address Data Error	設定エラー	フラッシュメモリ終了アドレスの設定が正しくありません。
ROM Block Address Data Error	設定エラー	ブロックコンフィギュレーションに設定したアドレスが正しくありません。

エラーコード	内容	詳細
ROM Block Size Data Error	設定エラー	ブロックコンフィギュレーションのブロックサイズの設定が正しくありません。
TgtROM/Buf Block Address Data Error	設定エラー	TgtROM か Buf のいずれかが設定されていません。
Memory Type Data Error	設定エラー	Memory Type の設定が正しくありません。
MCU Clock Frequency Data Error	設定エラー	動作クロックの設定が正しくありません。
WDT Clock Period Data Error	設定エラー	WDT 周期の設定が正しくありません。
TxCANID (CAN) Data Error	設定エラー	送信 CANID の設定が正しくありません
RxCANID (CAN) Data Error	設定エラー	受信 CANID の設定が正しくありません
S_SJW (CAN) Data Error	設定エラー	SJW の設定が正しくありません
TxCANID (CAN-FD) Data Error	設定エラー	送信 CANID の設定が正しくありません
RxCANID (CAN-FD) Data Error	設定エラー	受信 CANID の設定が正しくありません
S_SJW (CAN-FD) Data Error	設定エラー	SJW の設定が正しくありません
F_SJW (CAN-FD) Data Error	設定エラー	F_SJW の設定が正しくありません。
Data Error	設定エラー	ブロックストアの格納データが正しく設定されていません。
~ is access error!	ファイルアクセスエラー	ファイルへのアクセスが失敗しました
~ is not accessible	ファイルアクセスエラー	ファイルへのアクセスに失敗しました。
FOLDER IS EXIST	ファイル名エラー	同じ名前のフォルダが存在します。
Invalid Password, try again	パスワードエラー	パスワードが正しくありません。
001:COMMAND FILE NOT FOUND	ファイル名エラー	ファイル名が正しくありません。
Serial Number Setting Error	SD・HARD シリアル番号設定エラー	シリアル番号設定時にエラーが発生しました。
Serial Number Format Error	シリアル番号 フォーマットエラー	シリアル番号のフォーマットが正しくありません。
Update File Upload ERROR	FIRM・FPGA・プローブのアップデートエラー	File x x x でのアップデートに失敗しました。

5.付録 1 CAN 設定値一覧

本章では、通信方式で CAN を選択した場合の、設定値一覧を記載します。

SWX600 ではいくつかの代表的な設定値をデフォルトで、選択肢から選択することで、

CAN 通信に伴う設定を容易に設定することができます。

選択肢にない” Bit Rate” “ Sampling Point”を指定する場合には、「Bit Timing Setting」ボタンから、任意の値を設定することも可能です。

■SWX600 で設定可能としている、Bit Rate と Sampling Point は下表の通りです。

CAN					
Bit Rate[Kbps]	Sampling Point[%]	Tseg1(※)	Tseg2(※)	SJW(※)	PRESC(※)
125	60	12(10)	8(7)	8(7)	16(15)
	65	13(11)	7(6)	7(6)	16(15)
	70	14(12)	6(5)	6(5)	16(15)
	75	15(13)	5(4)	5(4)	16(15)
	80	16(14)	4(3)	4(3)	16(15)
	85	17(15)	3(2)	3(2)	16(15)
250	60	12(10)	8(7)	8(7)	8(7)
	65	13(11)	7(6)	7(6)	8(7)
	70	14(12)	6(5)	6(5)	8(7)
	75	15(13)	5(4)	5(4)	8(7)
	80	16(14)	4(3)	4(3)	8(7)
	85	17(15)	3(2)	3(2)	8(7)
500	60	12(10)	8(7)	8(7)	4(3)
	65	13(11)	7(6)	7(6)	4(3)
	70	14(12)	6(5)	6(5)	4(3)
	75	15(13)	5(4)	5(4)	4(3)
	80	16(14)	4(3)	4(3)	4(3)
	85	17(15)	3(2)	3(2)	4(3)
1000	60	12(10)	8(7)	8(7)	2(1)
	65	13(11)	7(6)	7(6)	2(1)
	70	14(12)	6(5)	6(5)	2(1)
	75	15(13)	5(4)	5(4)	2(1)
	80	16(14)	4(3)	4(3)	2(1)
	85	17(15)	3(2)	3(2)	2(1)

x x x(※) : SWX600 の表示値 (パラメータファイル内の値) 表示値と実設定値は異なります

$$Tseg1 = (\text{表示値} - 2) \quad Tseg2/SJW/PRESC = (\text{表示値} - 1)$$

- 選択項目以外の” Bit Rate” ”Sampling Point”の設定は、「Bit Timing Setting」ボタンから設定可能です。
- ※任意の設定値の場合の通信動作（AFX ⇄ Target）に関しては、それぞれの通信設定値を合わせておくことを推奨します。

周波数は 40MHz 固定です。

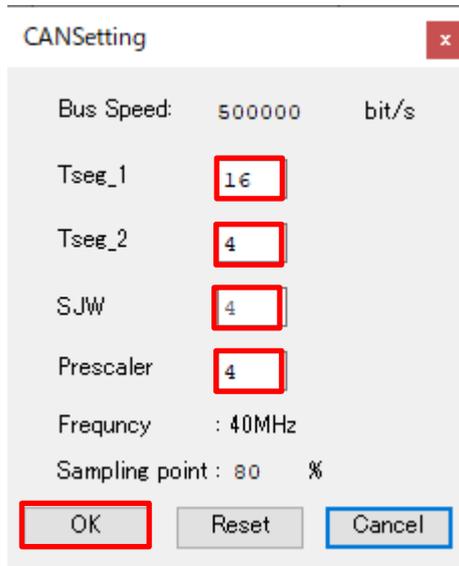


図 1

設定手順

1. 図 1 の赤枠内にそれぞれの値を入力してください。
2. 図 1 の OK ボタンを押すとメイン画面に反映されます。
 - ・ 図 1 Reset ボタン：編集前の値に戻します。
 - ・ 図 1 Cancel ボタン：編集をキャンセルし、メイン画面に戻ります。

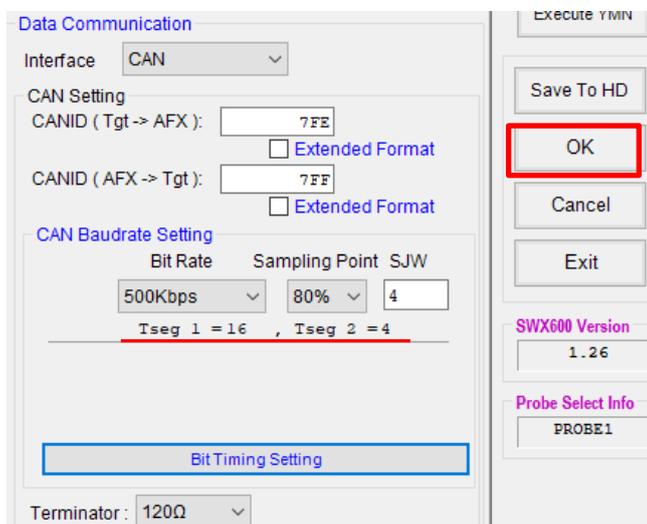


図 2

3. OK ボタン (図2 赤枠) を押すと、AFX への設定が反映されます。

デフォルトの設定値リストに該当しない場合には、"Bit Rate" "Sampling Point"は、非選択の状態での表示となりますが、設定した値は、テキスト表示 (図2 赤下線) から確認できます。

4. デフォルトの設定に戻す場合には、" Bit Rate" → "Sampling Point"の順に再度選択し、OK ボタン (図3 赤枠) を押してください。

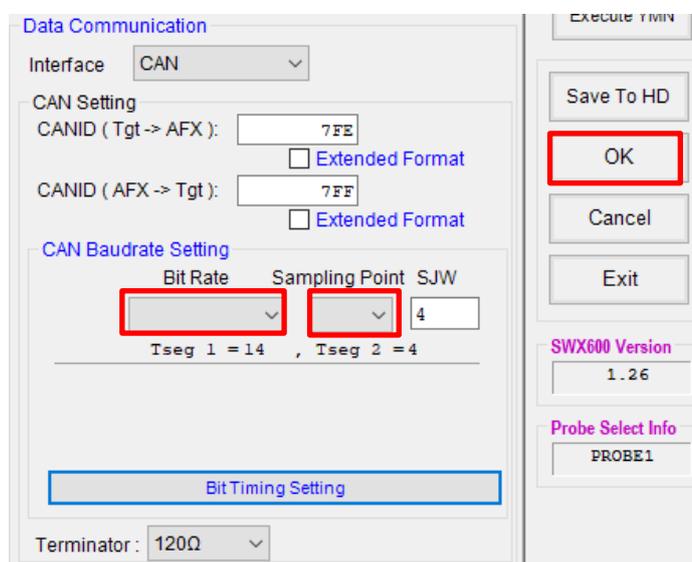


図3

6.付録2 CAN-FD 設定値一覧

本章では、通信方式で CAN-FD を選択した場合の、設定値一覧を記載します。

SWX600 ではいくつかの代表的な設定値をデフォルトで、選択肢から選択することで、CAN-FD 通信に伴う設定を容易に設定することができます。

選択肢にない” Bit Rate” “ Sampling Point”を指定する場合には、「Bit Timing Setting」ボタンから、任意の値を設定することも可能です。

■SWX600 で設定可能としている、Bit Rate と Sampling Point は下表の通りです。

CANFD Arbitration Phase					
Bit Rate[Kbps]	Sampling Point[%]	Tseg1(※)	Tseg2(※)	SJW(※)	PRESC(※)
125	60	48(46)	32(31)	32(31)	4(3)
	65	52(50)	28(27)	28(27)	4(3)
	70	56(54)	24(23)	24(23)	4(3)
	75	60(58)	20(19)	20(19)	4(3)
	80	64(62)	16(15)	16(15)	4(3)
	85	68(66)	12(11)	12(11)	4(3)
250	60	48(46)	32(31)	32(31)	2(1)
	65	52(50)	28(27)	28(27)	2(1)
	70	56(54)	24(23)	24(23)	2(1)
	75	60(58)	20(19)	20(19)	2(1)
	80	64(62)	16(15)	16(15)	2(1)
	85	68(66)	12(11)	12(11)	2(1)
500	60	選択不可			
	65	52(50)	28(27)	28(27)	1(0)
	70	56(54)	24(23)	24(23)	1(0)
	75	60(58)	20(19)	20(19)	1(0)
	80	64(62)	16(15)	16(15)	1(0)
	85	68(66)	12(11)	12(11)	1(0)
1000	60	選択不可			
	65	選択不可			
	70	選択不可			
	75	30(28)	10(9)	10(9)	1(0)
	80	32(30)	8(7)	8(7)	1(0)
	85	34(32)	6(5)	6(5)	1(0)

x x x(※) : SWX600 の表示値 (パラメータファイル内の値) 表示値と実設定値は異なります

$$Tseg1 = (\text{表示値} - 2) \quad Tseg2/SJW/PRESC = (\text{表示値} - 1)$$

CANFD Data Phase					
Bit Rate[Kbps]	Sampling Point[%]	Tseg1(※)	Tseg2(※)	SJW(※)	PRESC(※)
1000	60	12(10)	8(7)	8(7)	2(1)
	65	13(11)	7(6)	7(6)	2(1)
	70	14(12)	6(5)	6(5)	2(1)
	75	15(13)	5(4)	5(4)	2(1)
	80	16(14)	4(3)	4(3)	2(1)
	85	17(15)	3(2)	3(2)	2(1)
2000	60	12(10)	8(7)	8(7)	1(0)
	65	13(11)	7(6)	7(6)	1(0)
	70	14(12)	6(5)	6(5)	1(0)
	75	15(13)	5(4)	5(4)	1(0)
	80	16(14)	4(3)	4(3)	1(0)
	85	17(15)	3(2)	3(2)	1(0)
4000	60	6(4)	4(3)	4(3)	1(0)
	65	選択不可			
	70	7(5)	3(2)	3(2)	1(0)
	75	選択不可			
	80	8(6)	2(1)	2(1)	1(0)
	85	選択不可			
5000	60	選択不可			
	65	選択不可			
	70	選択不可			
	75	6(4)	2(1)	2(1)	1(0)
	80	選択不可			
	85	選択不可			
8000	60	3(1)	2(1)	2(1)	1(0)
	65	選択不可			
	70	選択不可			
	75	選択不可			
	80	選択不可			
	85	選択不可			
	100	選択不可			

x x x(※) : SWX600 の表示値 (パラメータファイル内の値) 表示値と実設定値は異なります

$$Tseg1 = (\text{表示値} - 2) \quad Tseg2/SJW/PRESC = (\text{表示値} - 1)$$

- 選択項目以外の” Bit Rate” ”Sampling Point”の設定は、「Bit Timing Setting」ボタンから設定可能です。
- ※任意の設定値の場合の通信動作（AFX ⇄ Target）に関しては、それぞれの通信設定値を合わせておくことを推奨します。

周波数は 40MHz 固定です。

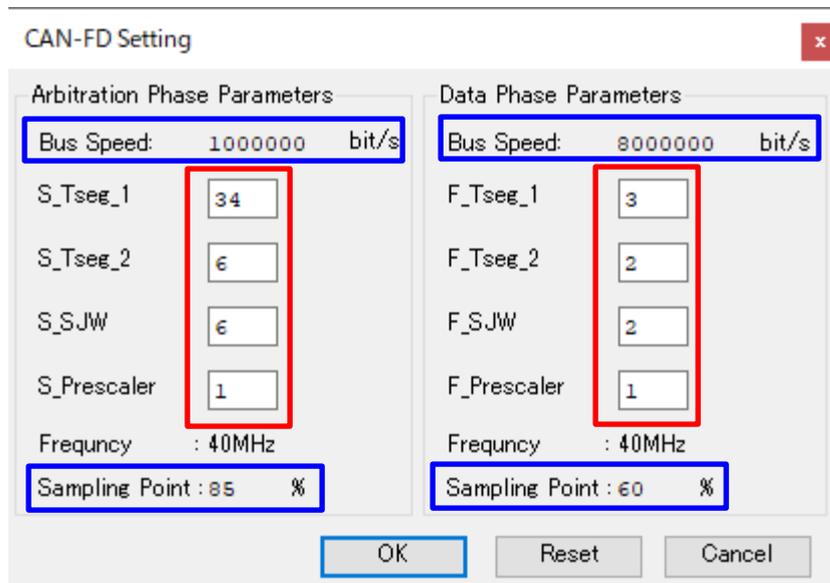


図 1

設定手順

1. 図 1 の赤枠内にそれぞれの値を入力してください。
2. 図 1 の OK ボタンを押すとメイン画面に反映されます。
 - ・ 図 1 Reset ボタン：編集前の値に戻します。
 - ・ 図 1 Cancel ボタン：編集をキャンセルし、メイン画面に戻ります。

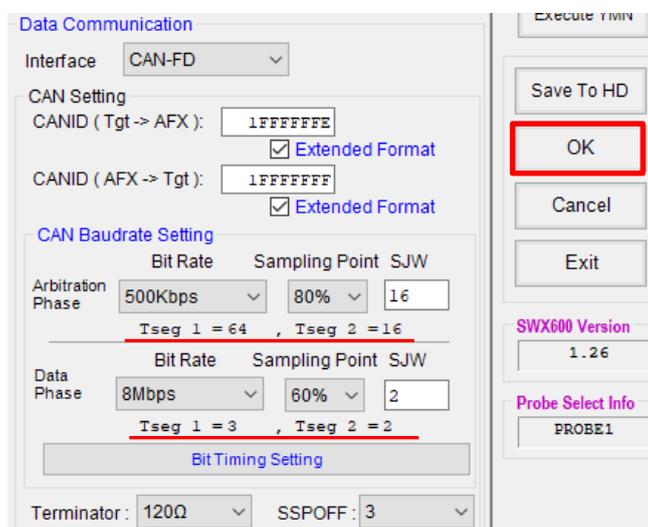


図 2

3. OK ボタン (図2 赤枠) を押すと、AFX への設定が反映されます。

デフォルトの設定値リストに該当しない場合には、” Bit Rate” ”Sampling Point”は、非選択の状態での表示となりますが、設定した値は、テキスト表示 (図2 赤下線) から確認できます。

4. デフォルトの設定に戻す場合には、” Bit Rate” → “Sampling Point”の順に再度選択し、OK ボタン (図3 赤枠) を押してください。

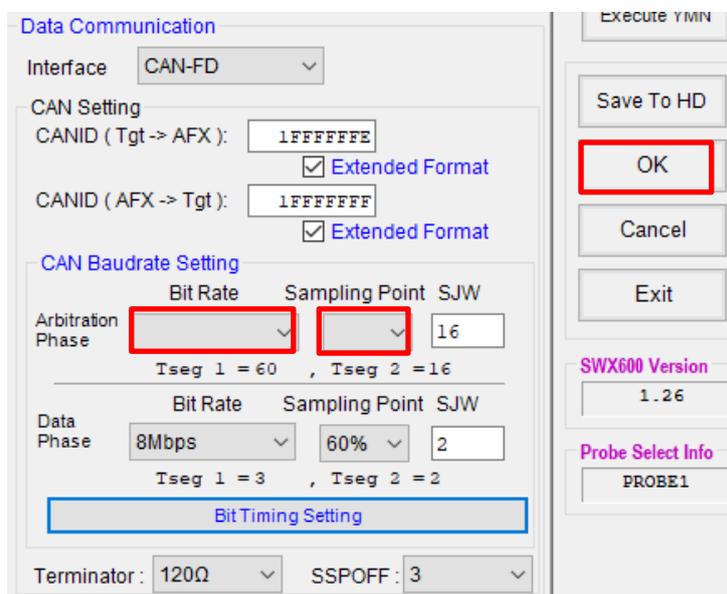


図3

7.お問い合わせ先

本機の仕様および応用に関するお問い合わせはサポートセンターにて承っております。なお価格や納期などの販売に関する内容については、最寄りの営業、代理店にお問い合わせください。

お問い合わせ先

NETIMPRESS サポートセンター

E-mail : support-impress@dts-insight.co.jp

住所 : 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4-30-3 新宿 MIDWEST ビル 7F



SWX600 ソフトウェアマニュアル

株式会社DTSインサイト

URL : <https://www.dts-insight.co.jp/product/programmer/netimpress-avant/>

2022年5月19日 第6版発行

© 2022 DTS INSIGHT CORPORATION. All rights reserved.